

消防年報



白老町消防本部

令和元年度版(令和2年刊行)

は し が き

- 1 この年報は、本町消防の業績、状況及び現勢を明らかにし、この結果を消防行政上、有効に活用する目的をもって編集した。
- 2 統計は、火災・救急等については令和元年12月31日、その他については令和2年4月1日をもって収録した。

令和2年4月

白老町消防本部

目 次

総 務 関 係	-----	1 ~ 11
1 消 防 本 部 の 沿 革		
2 白 老 町 の 概 要		
3 消 防 組 織 と 現 有 力		
4 消 防 庁 舎 等 の 現 況		
5 消 防 予 算		
予 防 関 係	-----	12 ~ 20
1 防 火 対 象 物 の 状 況		
2 建 築 同 意 設 計		
3 危 険 物 施 設		
4 火 災 予 防		
5 火 災 防 災		
6 消 防 協 力 団 体 設 立 状 況		
警 防 関 係	-----	21 ~ 26
1 出 動 状 況 (火 災 ・ 救 助 ・ 警 防 活 動)		
2 救 急 出 動		
3 消 防 団 体		
4 消 防 水 利 の 現 況		
機 械 ・ 通 信 設 備 関 係	-----	27 ~ 30
1 現 有 消 防 車 両 一 覧		
2 特 殊 資 機 材 一 覧		
3 通 信 系 統		
4 無 線 電 話 配 置 状 況		

総務関係

1 消防本部の沿革

(1) 組織、装備、災害の記録

年 月 日	内 容
昭和46	6 . 1 白老町消防本部設置、本部に総務・予防・警防の3係を置く 職員定数18名、消防長事務取扱に町助役・長井忠典就任
	7 . 16 初代消防長事務取扱・長井忠典退任
	17 第2代消防長・佐々木時美就任
	9 . 6 無線局開局(基地局しらおいしょうぼうほんぶ)
	17 小型動力ポンプ付積載車、社台分団に配置
	26 台風29号による高波被害(虎杖浜防潮堤2カ所150m決壊)
	12 . 10 虎杖浜上水道施設完成、給水開始
47	4 . 1 白老町消防署を設置、消防署に警備係を置く、職員定数28名に増員 消防署長事務取扱に消防長・佐々木時美就任
	15 消防本部及び消防署設置政令指定(自治省告示第106号)
	7 . 1 第2代消防署長・松田賢吾就任
	9 . 1 第3代消防長・松田賢吾就任(消防署長事務取扱)
48	3 . 9 小型動力ポンプ付積載車を竹浦分団に配置、全分団配車完了(白老・萩野・虎杖 浜分団は消防ポンプ自動車配置済)
	30 救急車2B型1台寄贈、消防署に配置(救急1・日本自動車工業会)
48	4 . 1 救急業務を開始
	6 . 8 白老町消防団、北海道消防協会長より竿頭綬を受賞
	20 救急業務政令指定(自治省告示第119号)
	9 . 5 消防庁舎増改築工事着工
49	3 . 31 消防庁舎、鉄骨ブロック造2階建684.36㎡増改築完成
49	4 . 1 消防・救急指令装置設置(基地局10WLしらおいしょうぼう)
50	11 . 3 団長・本間松吉氏、勲五等瑞宝章を受ける(現職で叙勲)
	26 指令車購入、本部に配置(指令1)
	12 . 1 社台上水道施設完成、給水開始
51	4 . 15 白老危険物安全協会設立、会長(事業所)に大昭和製紙(株)白老工場長就任
	12 . 31 第3代消防団長・本間松吉退任
52	1 . 1 第4代消防団長・町田俊光就任
	2 . 3 消防ポンプ自動車CDⅡ型1台購入、消防署に更新配置(消防4・防衛施設補助)
52	4 . 29 元副団長・福田小一郎氏、勲六等旭日章を受ける
	5 . 9 字北吉原137番地より出火、4棟全焼
	6 . 8 消防業務連絡車1台購入
	7 . 28 水槽付消防ポンプ自動車1台寄贈、消防署に更新配置 (消防2・日本損害保険協会)
	12 . 6 消防待機宿舎、コンクリートブロック造2階建1棟4戸完成
53	4 . 1 救急業務の強化に伴い職員定数30名に増員
	29 元白老分団部長・万城目敏夫氏、勲七等青色桐葉章を受ける
	6 . 9 白老町消防団、北海道消防協会長より表彰旗を受賞
	11 . 24 消防待機宿舎、コンクリートブロック造2階建1棟4戸完成
54	4 . 28 第3代消防長(消防署長事務取扱)・松田賢吾氏、白老危険物安全協会の定期総 会中、体調不良を訴え入院・死亡
	6 . 1 第4代消防長・金谷忠彦就任(消防署長事務取扱)
	8 . 14 故・松田賢吾氏(第3代消防長)、勲五等瑞宝章を受ける
	28 消防団旗を更新購入
	10 . 3 集中豪雨被害(床上浸水5戸、床下浸水135戸、土砂崩れ15カ所)
55	2 . 4 元竹浦分団長故・鈴木正宏氏、勲六等単光旭日章を受ける

年月日	内 容
昭和55	4. 1 西部出張所開設準備に伴い、職員定数33名に増員 3 虎杖浜婦人会防火クラブ設立 18 社台婦人会防火クラブ設立 23 萩野朝霧区婦人会防火クラブ設立 5. 1 萩野石山婦人会防火クラブ設立 5 白老少年消防クラブ設立、制服80着日本防火協会より交付 7 萩野朝霧区少年消防クラブ設立 8. 31 集中豪雨被害(家屋全壊1戸、半壊2戸、床上浸水98戸、床下浸水500戸、土砂崩れ1カ所、崖崩れ2カ所) 10. 1 北吉原曙区婦人会防火クラブ設立 11. 5 西部出張所、鉄筋コンクリート平屋建282㎡完成、業務開始 水槽付消防ポンプ自動車1台(消防1)、職員5名配置 固定局5W・移動局1W・8局開局 30 耐震性防火水槽、40㎡有蓋空地用、白老町総合体育館前に設置 56 1. 1 消防団副団長1名制を2名制に改組 3. 23 消防ポンプ自動車CDⅡ型1台購入、消防署に配置(消防5・防衛施設補助) 56 4. 1 西部出張所に2名増員7名配置とする 8. 21 台風による大雨被害(家屋一部破損6戸、床上浸水27戸、床下浸水180戸) 11. 10 西部出張所待機宿舎、木造防火サイディング平屋建2棟4戸完成 27 小型動力ポンプ付積載車1台購入、萩野分団に更新配置(石油交付金) 57 4. 1 消防力増強のため職員定数40名に増員 6. 1 竹浦温泉区ふれあい町内会婦人会防火クラブ設立 7. 1 胆振地方消防訓練大会を白老中学校グラウンドで開催 8. 5 消防本部大型サイレン更新設置(出力3.7Kw防雪型) 10 竹浦・萩野分団車庫増築 12. 15 広報車1台寄贈(白老危険物安全協会)本部に設置 24 小型動力ポンプ付積載車1台購入、虎杖浜分団に更新配置(石油交付金) 指令車1台購入、本部に配置(指令2・石油交付金) 指令1、西部出張所に配置替え 58 4. 1 白老町婦人防火クラブ連合会設立、初代会長に本間ユキ子氏就任 7. 27 全道救助技術訓練指導会に苫小牧市消防本部の施設を借用して訓練し初出場(はしご登はん2名、ロープ登はん1名) 8. 1 役場機構改革により部制導入、消防長が部長職となる 11. 1 救急車2B型1台寄贈、西部出張所に配置(救急2・株川田グループ) 西部出張所で救急業務開始、4名増員11名配置とする 12. 14 道央自動車道救急業務開始、救急車2B型1台購入、消防署に配置(救急1) 26 小型動力ポンプ付積載車1台購入、社台分団に更新配置 大型10t水槽車1台購入、消防署に配置(消防6・石油交付金) 消防ポンプ自動車1台(消防4)、西部出張所に配置替え 59 7. 1 ポロト保育園幼児消防クラブ設立(後の緑丘保育園幼児消防クラブ) 26 全道消防救助技術訓練指導会「ロープ登はん」部門で全道準優勝 8. 24 全国消防救助技術大会「ロープ登はん」部門で入賞(名古屋市開催) 60 3. 8 小型はしご車1台購入、消防署に配置(消防7・石油交付金) 60 6. 5 全分団に携帯無線機を配置 8. 27 虎杖浜婦人会防火クラブに軽可搬ポンプ配置(女性消防隊助成金) 61 1. 1 第4代消防署長・高田和幸就任 21 救助器具(エンジン式油圧ポンプ・カッター・スプレッター・マット型空気ジャッキ・救命索発射銃)購入、消防署指令2号車に積載(石油交付金) 30 小型動力ポンプ付積載車1台購入、白老分団に更新配置(石油交付金) 指令車1台購入、消防署に更新配置(指令1・石油交付金) 広報車1台購入、西部出張所に配置(広報1・石油交付金)

年 月 日	内 容
昭和61	4 . 1 白老危険物安全協会が設立10周年を記念して16ミリ映写機・ワードプロセッサーを購入(記念式典は挙行せず)
	12 . 30 小型動力ポンプ付積載車1台購入、竹浦分団に更新配置(石油交付金)
62	1 . 29 救急車2B型1台購入、消防署に更新配置(救急3・石油交付金)
	30 携帯無線機2台を消防署に配置(石油交付金)
62	5 . 1 白老町婦人防火クラブ連合会第2代会長・河合蓉子氏就任
	6 . 5 防火広報車1台寄贈、消防本部に新規配置(広報2・日本防火協会)
	8 . 18 水槽付ポンプ自動車1台寄贈、消防署に更新配置(消防1・日本損害保険協会)
	西部出張所へ水槽付ポンプ自動車1台(消防2)、配置替え
	10 . 1 ポート保育園幼児消防クラブに日本防火協会より鼓笛隊セット交付
	26 集中豪雨被害(床上浸水81戸、床下浸水251戸)
	12 . 27 字北吉原の作業場より出火、消火活動中の萩野分団班長・泉金次郎氏が身体の不調を訴え、帰宅後に急性心不全により死亡
63	2 . 15 故・萩野分団部長(死亡日昇格)・泉金次郎氏、公務災害として認定される
	3 . 31 消防救急指令装置を更新設置(石油交付金)
63	4 . 5 故・泉金次郎氏の消防表彰式及び弔慰金等授与式を挙行
	5 . 20 査察車1台寄贈、本部に配置(査察1・毛笠コンクリート株)
	7 . 13 全道救助技術訓練指導会に独自施設を作成して団体種目で出場(ほふく救出1隊)
	10 . 1 救急医療情報システムを設置
	11 . 24 低気圧による暴風雨被害(消波堤損壊120m、漁具流出・損壊11件)
	12 . 9 空気呼吸器10台・予備ボンベ10本・予備面体10個・携帯無線機8台・ホース65mm30本・ホース50mm20本購入(石油交付金)
平成元	4 . 1 消防力増強のため職員定数41名に増員
2	3 . 1 防災無線を通信指令室に設置
2	4 . 1 消防本部次長・高田和幸就任(消防署長兼務)
	5 . 1 白老町婦人防火クラブ連合会第3代会長・本間ユキ子氏就任(再任)
3	2 . 8 空気呼吸器18台・予備ボンベ18本・セイバー5個・ホース65mm50本・ホース50mm30本・防火衣40着購入(石油交付金)
	13 北海道広域消防相互応援協定締結
	16 低気圧による高波被害(漁船13隻が破損)
	3 . 31 第4代消防長・金谷忠彦退任
3	4 . 1 第5代消防長事務取扱に町助役・作田利昭就任、消防長の階級を消防監に変更
	5 . 29 飛生で行方不明者捜索(消防職団員延べ105名・自衛隊員延べ200名・消防車両等延べ17台・ヘリコプター3機)
	6 . 30 第5代消防長事務取扱・作田利昭退任
	7 . 1 第6代消防長・青山照躬就任
4	2 . 1 緊急通報システム導入(42世帯)
	NEC PC-9801DX、NEC PC-20V60(プリンター)
	NEC PC-KD882(モニター)、TAIKO RTS-300R
	26 水槽型消防車1台購入、西部出張所に更新配置(消防4・石油交付金)
4	4 . 1 消防力増強のため職員定数49名に増員
	7 . 24 全道消防救助技術訓練指導会「ほふく救出」部門で全道優勝
	8 . 28 全国消防救助技術大会「ほふく救出」部門で入賞(千葉市開催)
	12 . 31 第4代消防団長・町田俊光退任
5	1 . 1 第5代消防団長・須貝竹寿就任
	15 釧路沖地震発生(白老町震度4、水道管破裂3件・商品破損53件・教育施設PC破損1件)
	3 . 12 査察車1台寄贈、本部に配置(査察2・毛笠コンクリート株)
	13 水槽付ポンプ自動車1台購入、消防署に更新配置(消防3・石油交付金)
	26 元副団長故・中野正道氏、勲五等瑞宝章を受ける

年 月 日	内 容
平成5	4 . 1 水槽付ポンプ自動車1台(消防1)、西部出張所に配置替え 本町第2町内会婦人会防火クラブ・東町第2町内会婦人会防火クラブ設立
	28 白老町婦人防火クラブ連合会設立10周年式典を開催
	5 . 1 本町婦人会防火クラブ・まきば保育園幼児消防クラブ 小鳩保育園幼児消防クラブ・はまなす保育園幼児消防クラブ たけのこ保育園幼児消防クラブ・海の子保育園幼児消防クラブ設立
6	6 . 1 東町第1婦人会防火クラブ設立 10 大町ファイアー・プリヴェーション・クラブ設立(少年消防クラブ)
	7 . 12 北海道南西沖地震発生(白老町震度4、商品破損1件) 23 全道消防救助技術訓練指導会に「引揚救助」初出場、同時に出場した「ほふく救出」部門で全道優勝 31 温帯低気圧による大雨被害(床上浸水1戸、床下浸水2戸、道路損壊20カ所)
	8 . 1 大町第2婦人会防火クラブ設立 20 全国消防救助技術大会「ほふく救出」部門で入賞(福岡市開催)
	11 . 1 女性消防団員導入5名新規採用(団本部付)
	2 . 15 白老町消防団、日本消防協会より竿頭綬を受賞 28 救助工作車両積載器具一式・携帯無線機4台購入(石油交付金) 3 . 28 無線サイレン自動吹鳴装置・虎杖浜地区サイレン2基を更新設置(防災まちづくり事業・出力5.5Kw) 31 第6代消防長・青山照躬退任
	6 . 4 . 1 第7代消防長・佐々木芳孝就任 6 . 1 女性消防団員5名増員、計10名とする(団本部付) 5 元団長・町田俊光氏、勲五等瑞宝章を受ける 9 . 18 台風による高波被害(人的被害2件、住宅一部破損8件、河川道路被害9件) 11 . 3 元副団長・中出正志氏、勲六等旭日章を受ける
	7 . 1 . 17 兵庫県南部地震発生(阪神・淡路大震災) 3 . 1 竹浦・社台地区サイレンを更新設置(防災まちづくり事業・出力5.5Kw) 24 救助工作車1台購入、消防署に配置(消防8・石油交付金)
	7 . 8 . 29 社台婦人会防火クラブに軽可搬ポンプ配置(女性消防隊助成金) 8 . 3 . 6 高規格救急車1台購入、消防署に更新配置(救急1・石油交付金) 27 萩野地区サイレンを新規設置(防災まちづくり事業・出力2.2Kw)
	8 . 4 . 1 消防力増強のため職員定数55名に増員 北海道消防防災ヘリコプター導入 6 . 7 白老危険物安全協会、創立20周年記念式典を開催 備品としてビデオプロジェクター1台寄贈 7 . 4 胆振地方消防訓練大会を14年ぶりに町民ふれあい広場で開催 10 . 1 白老町消防職員委員会が発足 9 . 3 . 21 高規格救急車1台購入、西部出張所に更新配置(救急2・石油交付金)
	9 . 9 . 1 水槽付ポンプ自動車1台寄贈、消防署に更新配置(消防2・日本損害保険協会) 10 . 7 救急救命士養成開始(救急救命東京研修所)
	10 . 3 . 31 第7代消防長・佐々木芳孝退任
10	4 . 1 第8代消防長・高田和幸就任(本部次長・署長事務取扱)、本署当直責任者として管理職(主幹)配置 17 救急救命士1名資格取得 7 . 31 役場機構改革により部制廃止、消防長を課長職に変更(階級は変更なし) 9 . 28 救急救命士養成研修(札幌市消防局救急救命士研修所) 11 . 1 消防署救急担当発足(8名) 12 . 28 消防本部サイレン塔建替え
	11 . 2 . 1 指揮車1台購入、消防署に配置(指揮1・石油交付金) 10 ISO準拠型対応防火衣上下型バンカーⅢ一部導入(石油交付金) 3 . 5 白老町消防本部・消防団、消防庁長官より竿頭綬を受賞

年月日			内 容	
平成11	11	3	元竹浦分団長・秋山 博氏、勲六等瑞宝章を受ける	
	12	7	ファイリングシステム導入	
12	15		萩野分団詰所、北吉原サイレン移転更新(産業再配置事業・出力5.5Kw)	
	2	18	多目的人員輸送車1台購入、消防署に配置(広報2・石油交付金)	
			西部出張所無線基地局・無線装置更新設置(石油交付金)	
			防火衣上下型バンカーⅢ導入完了(石油交付金)	
	3	23	高規格救急自動車整備事業(高度救急用資器材) ・半自動式除細動器 ・気道確保資器材 ・静脈路確保のための輸液 ・心電図伝送受信装置	
		27	救急救命士制度の運用開始	
		31	有珠山が23年ぶりに噴火、北海道広域応援協定により消防隊・救急隊・指揮隊各1隊応援出動(延39日間、220名)	
	12	4	1	組織機構改革によりスタッフ制導入
		29		元白老分団長・中村末蔵氏、勲六等瑞宝章を受ける
		8	21	朝霧区婦人会防火クラブ、全国婦人防火クラブ員救急講習モデルに決定、救急講習用訓練人形を日本防火協会より交付
	10	1	登別市との応援協定改正、応援対象範囲を拡大し隣接地区への認知出動可能	
		11	救急講習用訓練人形購入(民間防火組織等の防火・防災普及啓発推進事業)	
	11	7	須貝竹寿団長が纏・パソコンを寄贈(退団記念)	
	12	31	第5代消防団長・須貝竹寿退任	
13	1	1	第6代消防団長・木下助五郎就任	
		24	西部出張所にホース昇降装置を設置(石油交付金)	
		28	広報車1台購入、西部出張所に更新配置(広報1・石油交付金)	
	2	8	分団用防火衣一式63着購入(石油交付金)	
	3	21	消防ポンプ自動車1台購入、消防署に更新配置(消防5・産業再配置) 小型動力ポンプ付積載車1台購入、萩野分団に更新配置(産業再配置)	
13	4	1	第5代消防署長・前田登志和就任	
	11	3	元消防長・金谷忠彦氏、勲五等双光旭日章を受ける	
14	1	21	虎杖浜漁協所属の第七富栄丸が登別市・鷲別岬沖で転覆、消防団員1名を含む3名が行方不明	
	3	12	携帯用投光器購入(消防団員安全装備品助成金)	
		31	小型動力ポンプ付積載車1台購入、虎杖浜分団に更新配置、空気呼吸器5台購入(石油交付金)	
15	3	31	小型動力ポンプ付積載車1台購入、社台分団に更新配置、空気呼吸器5台購入(石油交付金)	
15	4	1	大昭和製紙(株)の合併により日本製紙(株)白老工場長が白老危険物安全協会会長を引継ぐ	
		4	29	前団長・須貝竹寿氏、自治功勞により勲五等双光旭日章を受ける
		9	29	十勝沖地震後苫小牧市出光興産(株)北海道製油所屋外貯蔵タンク火災が発生、北海道広域応援協定により消防隊1隊応援出動(延べ5日、24名)
		11	3	元虎杖浜分団長・紺谷光雄氏、瑞宝単光章を受ける
		12	22	苫小牧市・屋外貯蔵タンク火災への応援出動に対し北海道知事より表彰状受賞
			26	空気呼吸器14台購入(石油交付金)
	16	1	5	苫小牧市・屋外貯蔵タンク火災への応援出動に対し消防庁長官より褒状受賞
		6	緊急通報システム機種更新 RTS-250R(受信機)	
		9	白老消防創設100年記念式典挙行	
		2	14	白老町婦人防火クラブ連合会設立20周年式典を開催
			26	火災原因調査車1台購入、本部に配置(原調1:石油交付金)
			29	第8代消防長・高田和幸退任
		3	1	第9代消防長・前田登志和就任(本部次長事務取扱)
				第6代消防署長・鎌田正平就任
			4	白老町消防本部・消防団、消防庁長官より表彰旗を受賞

年 月 日		内 容
平成16	4. 1	消防組織法改正、緊急消防援助隊法制化
	29	元副団長・古俣忠幸氏、瑞宝双光章を受ける
	8. 24	平成15年9月に発生した苫小牧市・屋外貯蔵タンク火災応援出動に対し消防庁長官から表彰状を受ける
	9. 8	台風18号による強風被害(人的被害3件、家屋損壊34件、街路樹倒木2件)
17	2. 10	救命胴衣130着購入、各分団に配置(消防団員安全装備品助成金)
	3. 2	高規格救急車1台購入、消防署に更新配置(救急3・石油交付金)
17	4. 29	元副団長・渡辺兼一氏、元社台分団長・古俣義巳氏、瑞宝単光章を受ける
	5. 31	各メーカー携帯電話発信119番受信設備設置
18	2. 24	小型動力ポンプ付積載車1台購入、竹浦分団に更新配置(石油交付金)
	3. 10	団員用防寒衣120着購入(消防団員安全装備品助成金)
	14	宇石山に消防庁舎用敷地(防災拠点施設分含む)5,974.28㎡を購入
	31	道見義正氏より指定寄付、10万円相当の消防訓練用備品購入
18	4. 1	消防庁の基準に適合させるため、消防長の階級を司令長に変更
	5. 19	白老危険物安全協会、創立30周年記念式典を開催、備品としてパソコン1台、プロジェクター1台寄贈
	6. 23	消防庁舎(防災拠点施設を含む)建設工事着工
	26	消防庁舎用敷地224.8㎡を追加購入、延べ6,199.08㎡となる
	9. 5	台風12号による高波被害(家屋損壊3件、漁船被害10件)
10. 20		油圧式救助器具エンジンポンプ他更新
12. 1		虎杖浜婦人防火クラブ軽可搬ポンプ更新、組立水槽及び操法用標的購入(女性消防隊助成金)
19	1. 1	緊急消防援助隊に登録(消火小隊:消防2号車)
	2. 23	小型ポンプ付積載車1台購入、白老分団に更新配置(石油交付金) 消防用ホース、空気呼吸器購入(石油交付金) 防災広報車1台寄贈、本部に更新配置(査察車・日本消防協会)
	3. 24	樽前山火山対策防災拠点施設(北海道開発局室蘭開発建設部)併設消防庁舎竣工、鉄筋コンクリート造地上2階、地下1階建 延べ2,715.5㎡ (消防庁舎床面積1,634.5㎡)
19	4. 1	次長制を廃止し本部に課長職を配置、予防担当参事に中村 諭就任
	19	新庁舎外構工事着工
	23	新庁舎前国道36号線片側2車線化の工事着工
	29	元竹浦分団長・斉藤廣志氏、瑞宝単光章を受ける
	8. 27	消防団現地教育訓練として消防団員等公務災害補償等共済基金事業「消防団員安全管理セミナー」を実施、胆振管内の職団員100名が受講
	9. 30	通信指令装置更新、新庁舎に配置(石油交付金)
10. 1		新庁舎開庁式挙行、運用開始、旧本部庁舎を白老分団詰所及び役場倉庫に転用し、小型ポンプ付積載車2台(団本部、白老分団)配置、サイレン自動吹鳴装置設置
	11. 1	地震速報通知システム運用開始
20	3. 31	第6代消防団長・木下助五郎退任、第6代消防署長・鎌田正平退任
20	4. 1	第7代消防団長・松田喜代一就任、第7代消防署長・中村 諭就任 町定員管理計画により、職員定数を50名に縮小 男性団員、新活動服導入 消防組織法改正に伴い北海道が「消防広域化推進計画」策定
	6. 2	新携帯e-モバイル社、119番受信運用開始
	11. 3	元団長・木下助五郎氏、瑞宝単光章を受ける
	11. 28	東胆振広域圏振興協議会において「消防広域化検討会」設置を承認
	12. 1	北吉原曙婦人防火クラブに軽可搬ポンプ配置、AED・AEDトレーナー購入(女性消防隊交付金)
	15	旧本部庁舎の白老分団詰所を改修し、2階に白老町高齢者事業団、連合白老の事務所転入、合同庁舎となる。団本部車を本部に配置替え

年月日			内 容
平成20	12 .	22	マット型空気ジャッキ更新、高規格救急車購入のため基金造成(石油交付金)
平成21	1 .	29	婦人防火クラブ連合会会長・本間ユキ子氏、日本防火協会会長表彰受賞
	4 .	1	機構改革により課制及びグループ制を導入し、消防長を部長職に変更、本部に消防管理課を新設、課長に越前 寿就任
			女性団員、制服更新
		29	元副団長・菊池美代治氏、瑞宝単光章を受ける
	6 .	30	都市型救助資機材一式購入
	7 .	6	婦人防火クラブ連合会会長・本間ユキ子氏、消防功労者総務大臣表彰を受ける
	8 .	17	元消防司令・山本 弘氏から職員福利厚生事業として液晶テレビ1台寄贈
	9 .	8	消防1を訓練用車両として北海道消防学校に無償譲渡
	10 .	1	白老ライオンズクラブ45周年記念事業として防火指導用軽自動車1台寄贈、本部に配置(査察2)
	11 .	3	元消防長・高田和幸氏、瑞宝双光章、元社台分団長・古俣行雄氏、瑞宝単光章を受ける
		30	現場活動警報器・活線接近警報器、各10個購入(消防団員安全装備品助成金)
	12 .	6	低気圧による暴風被害(家屋損壊10件、電柱倒壊1件)
		11	松田喜代一団長より指定寄附、70万円相当の消防・救急活動用備品購入
		25	本町婦人防火クラブに軽可搬ポンプ配置、煙体験ハウス・スモークマシン購入(女性消防隊交付金)
22	2 .	5	消防団救助資機材一式、団本部に配置(消防庁貸与品)
		22	高度救命処置シュミレーター、消防署に配置(消防庁貸与品)
		26	救急隊員訓練資機材(自己注射が可能なアドレナリン製剤)、消防署に配置(消防庁無償譲与品)
		28	チリ地震による津波警報発令に伴う特別警戒体制をとる。身体障がい者避難支援活動実施(4世帯)
	3 .	10	(財)日本防火・危機管理促進協会より国民保護訓練用資機材として、サイレン付きメガホン2台無償配布
		31	古俣行雄氏より指定寄附、20万円相当の消防活動用備品購入
22	4 .	1	機構改革により、西部出張所に管理職(主幹)配置
	8 .	26	小規模福祉施設に対し火災警報器無償譲与(消防庁事業)に伴う防火講習会開催
	9 .	30	消防団現地教育訓練として、消防団公務災害補償等共済基金事業「S-KYT(消防団危険予知訓練)研修」実施、胆振管内の職団員70名が受講
	11 .	3	元白老分団長・塚見泰雄氏、瑞宝単光章を受ける
	12 .	22	萩野石山婦人防火クラブに軽可搬ポンプ配置、視聴覚資器材購入(女性消防隊交付金)
23	3 .	11	東北地方太平洋沖地震発生(東日本大震災)、1.71mの津波を観測、港で漁業被害等発生、避難広報・白老港にて潮位観測実施
		15	東日本大震災姉妹都市災害支援隊として1名、他役場職員5名、民間業者2名、消防広報車他車両2台を仙台市に派遣、給水支援活動等にあたる(11日間)
		16	高規格救急車1台購入、消防署に更新配置(救急1・石油交付金)
		18	消防団公務災害補償等基金より、ヘッドライト40個・ケブラー手袋40双無償配布
	3 .	25	東日本大震災第5次緊急消防援助隊北海道隊として、支援隊2名、消防広報車1台を宮城県石巻市に派遣(6日間)
		28	旧救急1を東胆振DMAT用救急車として苫小牧王子総合病院に無償譲渡
		29	NTTひかり回線供用開始
		31	簡易型携帯・IP電話位置情報通知システム新規導入(石油交付金)
23	4 .	1	携帯・IP電話位置情報通知システム運用開始
		1	緊急消防援助隊に追加登録(後方支援隊:広報2号車)
		1	緊急消防援助隊用放射線防護資機材として、個人線量計5台・ガンマ線及びエックス線用線量率計1台を配置(消防庁貸与品)
		5	東日本大震災第8次緊急消防援助隊北海道隊として、消火隊5名・水槽付ポンプ車1台を宮城県石巻市に派遣(7日間)
		17	東日本大震災第11次緊急消防援助隊北海道隊として、支援隊2名・広報車1台を宮城県石巻市に派遣(7日間)
		29	元萩野分団長・大浦一夫氏、瑞宝単光章を受ける

年 月 日		内 容
平成23	5. 13	佐藤俊雄氏より指定寄附、50万円相当の消防活動用備品購入
	20	婦人防火クラブ連合会本間ユキ子会長、北海道婦人防火クラブ連合会会長に就任
	9. 11	天皇陛下北海道行幸による御来町に伴い、特別警戒を実施(指揮隊・救急隊・消防隊を白老地区に移動配備)
	10. 1	虎杖小学校教員住宅を虎杖浜分団詰所として借用(ブロック平屋建て延べ60.48㎡敷地300㎡)
	11. 9	東日本大震災緊急消防援助隊の活動に対して、総務大臣より表彰を受ける
	25	東町第2町内会婦人会防火クラブに軽可搬ポンプ・組立て水槽他操法訓練資機材購入(女性消防隊助成金)
24	2. 1	国の第3次補正による消防防災通信基盤事業費補助事業により、消防救急デジタル無線設備整備事業の採択を受ける(平成24年度事業に繰越)
24	4. 1	緊急消防援助隊に追加登録(救急小隊:救急3号車)
	28	東胆振広域圏振興協議会で、平成20年から協議を継続していた東胆振3消防本部の広域化断念
	29	元白老分団長・野本紀一氏、瑞宝単光章を受ける
5.	13	白老危険物安全協会会長事業所の日本製紙(株)北海道工場白老事業所が北海道危険物安全協会推薦で、防火功労により消防庁長官表彰受章
6.	1	消防救急デジタル無線施設整備工事着工
	27	胆振地方消防訓練大会を町民ふれあい広場で16年ぶりに開催
9.	1	パソコンから携帯電話受信メールによる職員非常召集システム運用開始
11.	27	低気圧による暴風雪により西胆振地域に広域停電発生、虎杖浜地区の停電により公民館を避難所として開所、30日まで通電火災等に対する警戒体制をとる
12.	7	低気圧により町内広範囲に屋根の飛散等暴風災害発生、延べ27隊81名により危険排除業務対応を行う
25	1. 18	白老港港湾道路改修工事に伴い、石山地区に40t耐震型防火水槽移転設置
	2. 4	消防救急デジタル無線施設整備工事完了
	3. 1	デジタル統制波運用開始(アナログ波と併用)
25	4. 1	役場機構改革により部制廃止、消防長を課長職に変更
	29	元虎杖浜分団長・本間 強氏、元消防本部主幹・山本 弘氏、瑞宝単光章を受ける
	7. 19	北海道消防操法訓練大会に白老分団出場し入賞
	9. 1	女性団員、活動服更新
	2	北海道防災総合訓練図上訓練(白老町被害想定・室蘭市開催)参加
	26	消防団現地教育訓練として、消防団公務災害補償等共済基金事業「消防団員健康管理セミナー」を実施、胆振管内の職団員80名が受講
10.	12	緊急消防援助隊北海道東北ブロック訓練(苫小牧市開催)に業務要員として3名派遣
	29	北海道防災総合訓練実動訓練を胆振管内モデル地区として白老町で開催、避難訓練に町民約2,800人が参加、住民避難誘導・退避訓練及び自衛隊・伊達日赤病院と協力して救出救助応急救護所設定訓練実施(職団員50名参加)
11.	3	町定例表彰式において、婦人防火クラブ連合会が防災貢献表彰を受ける
	6	白老町婦人防火クラブ連合会創立30周年記念式典挙行。式典において、虎杖浜婦人防火クラブが北海道少年婦人(女性)防火協議会長表彰を受賞、町内全婦人防火クラブ(7クラブ)が町長から感謝状を受ける
12.	25	職員用防火服一式更新、総務省消防庁通知「防火服のガイドライン」適合品47着(特定防衛施設周辺整備調整交付金)
26	3. 31	第9代消防長・前田登志和退任
26	4. 1	第10代消防長(本部消防管理課長事務取扱)・中村 諭就任、第8代消防署長・越前 寿就任
	1	機構改革により、本部消防管理課を総務G・予防G・警防G・救急Gの4グループ体制とする
	1	平成23年10月から虎杖浜分団詰所として借用していた教員住宅を、教育財産から移管し消防施設として管理開始

年 月 日	内 容			
平成26	7.	8	石狩地方南部を震源とするM5.6の直下型地震により当町で過去最大の震度5弱を記録。救助隊等3隊を白老地区に展開して警戒体制にあたる。軽症者2名、公共施設等での被害が発生した	
	9.	10	低気圧による記録的大雨により被害発生、2地区に避難勧告発令。災害対応のため指揮隊及び消防隊7隊出動し、孤立家屋からの救助活動及び住民避難支援等現場対応にあたる。避難住民は3避難所で81名となる	
		12	10日に引き続き、低気圧による大雨に伴う土砂災害危険により、全町に避難勧告発令。避難勧告のため4隊を全町に展開し広報活動にあたる。3日間の大雨により、床上浸水1件、床下浸水4件、道路決壊のほか農業、商業被害多数受ける	
	10.	1	現場対応型防寒服導入、全職員に貸与	
	11.	3	低気圧による暴風により、電柱1本倒壊し250世帯停電発生。消防隊1隊出動し、危険排除及び通電火災警戒にあたる	
		4	前日に引き続き、低気圧による暴風により、非住居家屋の屋根等損壊2件、消防隊2隊出動し、飛散危険排除にあたる	
	12.	1	高規格救急自動車1台購入、消防署に更新配置(救急2 特定防衛施設周辺整備調整交付金)	
		1	現場活動用省電カトランシーバー60台購入、取扱訓練実施後、消防団各分団に配置(消防団安全装備品助成金)	
		1	当町消防職員の日頃の安全運転励行の功績により、平成26年度札幌方面安全運転管理者協会長・優良安全運転管理事業所表彰を受賞	
		12	インフルエンザ集団感染(4名)及び感染疑い(3名)発生に伴い、BCP(業務継続計画)による特別勤務編成発動(~18日)	
		16	低気圧による高波により、胆振海岸に水防警報発令。萩野身体障がい者住宅裏の護岸及び北吉原地区から社台地区の海岸に指揮隊1隊出動し、警戒にあたる。暴風により、住居家屋3件、非住居家屋2件の屋根等損壊、消防隊延べ7隊出動し、飛散危険排除にあたる	
		17	前日に引き続き、低気圧による暴風により、非住居家屋の屋根損壊、消防隊2隊出動し、飛散危険排除にあたる	
		18	低気圧による消防施設の被害調査実施。虎杖浜分団車庫屋根・外壁剥離等及び社台分団詰所外壁剥離の被害を受ける	
	27	1.	1	救急用高性能感染防止衣導入 全救急隊員に貸与
		1	1	救急2更新に伴い、救急1を西部出張所に配置換え
		3.	1	今年度導入自動心臓マッサージ器を西部出張所配置の救急1に積載、運用開始
	27	4.	1	機構改革により本部消防管理課を消防課(総務G・警防G・救急G)と予防課(予防G)に分離、消防課長に渡辺一雄、予防課長に笠原勝司就任
		1	1	職員・団員の制服用ネクタイを新基準に変更
		1	1	各分団に配布した省電カトランシーバーの現場運用開始
		29	1	婦人防火クラブ連合会会長の本間ユキ子氏、北海道婦人防火クラブ連合会協議会会長として日本防火協会推進の防火功勞により、旭日双光章を受ける
	5.	1	白老さくら幼稚園幼児消防クラブ設立、町内6団体目となる	
	6.	1	緊急ネットワークシステムEm-Net運用開始	
	7.	1	消防団盛夏衣上衣、新基準に更新	
	8.	1	消防救急デジタル無線設備整備事業(活動波整備)に対して、平成27年度無線システム普及支援事業費補助金の採択を受ける	
	9.	1	町消防防災GISシステム運用開始	
	2	1	低気圧による短時間集中豪雨に伴い、河川水位観測活動及び道路冠水情報収集のため指揮隊1隊・消防隊2隊出動し活動にあたる	
	10	1	台風接近による暴風により、非住居家屋の屋根損壊に伴い消防隊1隊出動し危険排除にあたる。波浪により、萩野身体障がい者住宅裏にて波高監視及び胆振海岸水防警報発令に伴い、指揮隊1隊・消防隊3隊出動波高監視警戒にあたる	
	11	1	前日に引き続き、台風接近の波浪に伴う越波災害危険により、竹浦・虎杖浜地区の一部に避難勧告発令。3避難所に20名が避難、越波による被災建物の対応で消防隊2隊、波高監視警戒のため消防隊5隊・消防団隊2隊出動して対応にあたる。非住居家屋等8件の被害を受ける	
	18	1	17日に発生したチリ沖地震(M8.2)による津波注意報発令に伴い、海岸監視のため消防隊9隊・指揮隊3隊出動して警戒にあたる	

年 月 日			内 容	
平成27	10.	8	台風23号の暴風により、住宅に隣接する倒木危険排除のため消防隊1隊、家屋の屋根損壊に消防隊4隊出動して飛散危険排除にあたる	
	10.	13	突風により立木が転倒し、住宅損壊被害1件発生、危険排除のため消防隊1隊出動して対応にあたる	
	12.	25	大型水槽車1台購入、消防署に更新配置 消防6号車(石油交付金)	
	28	1.	14	浦河沖地震のため、地域防災計画による連絡本部設置、指揮隊1隊は役場危機管理室待機・消防隊2隊は施設等被害調査実施
			19	低気圧による波浪により、胆振海岸に水防警報発令。町災害対策本部に指揮隊2隊・全地区の海岸に消防隊3隊・消防団隊全分団5隊出動し、警戒及び流木等の除去活動にあたる
	2.	6	越波により住居家屋4件、非住居家屋2件、水産加工場3件、造船工場1件で家屋損壊等の被害及び高波により白老港内の係留漁船接触による漁業被害を受ける。萩野身体障がい者住宅6名が保健福祉センター等に自主避難	
		29	栄町第1女性防火クラブ・栄町第2女性防火クラブ設立、町内9団体となる	
		29	低気圧による暴風雪により、胆振海岸に水防警報発令、指揮隊1隊で海岸警戒及び家屋等の屋根飛散危険排除のため、消防隊4隊・指揮支援隊1隊出動して対応にあたる。住居家屋1件、非住居家屋2件、工場1件の被害が発生	
	3.	22	空気呼吸器(ドレーゲル)5台・予備ポンペ15本購入、消防署に更新配置(石油交付金)	
		28	消防救急無線デジタル化工事完了、全波(統制波3・主運用波7・活動波2)デジタル運用開始	
		31	白老地区老朽化消火栓16基更新(特定防衛施設周辺整備調整交付金)	
	28	4.	29	元消防長・前田登志和氏、瑞宝双光章、元副団長・伊東和男氏、瑞宝単光章を受ける
		6.	25	大雨洪水警報発令に伴う土砂災害情報により、町内の土砂災害危険地域に避難勧告発令、広報隊延べ4隊及び浸水箇所に指揮隊1隊、消防隊延べ7隊出動して対応にあたる。白老地区住民3名中央公民館に避難、石山地区等に床下浸水2件、町内各所に道路冠水被害6件、河川・道路損壊2件発生
		7.	16	全道消防救助技術訓練指導会に20年ぶりに参加、「ロープ応用登はん」に2隊・4名出場、1隊入賞
		8.	17	台風7号北海道上陸による大雨・洪水・波浪警報発令に伴い、町内の土砂災害危険地区に避難勧告発令、広報隊3隊及び浸水箇所に指揮隊1隊、消防隊延べ6隊出動して対応にあたる。町内各所に道路冠水被害発生
			30	台風10号接近による暴風・波浪・大雨警報発令に伴い、町内の海岸越波危険地区に避難勧告発令、広報隊延べ7隊(署4・団3隊)及び胆振海岸水防警報発令により波高監視警戒のため消防隊延べ5隊(署4・団1隊)、暴風による屋根等飛散、危険排除のため消防隊3隊出動して対応にあたる。町内各避難所に13世帯22名が避難し、暴風・越波による住居家屋被害2件、非住居家屋被害3件、床上浸水2件、床下浸水1件、農業被害等6件、越波による国道通行止め1件発生
		9.	28	白老危険物安全協会創立40周年記念式典挙行、記念品として「防水型デジタル一眼レフカメラ」及び「火災予防運動啓発用反射横断幕」の寄贈を受ける
		10.	6	消防団現地教育訓練として、消防団公務災害補償等基金事業「安全管理セミナー」実施、胆振管内の職団員86名が受講
		11.	3	町定例表彰式において「防災功労」として危険物安全協会役員4事業所が町長表彰を受ける
			7	本間ユキ子氏、北海道婦人防火クラブ連合会会長退任
12.		23	町内で発生した高病原性鳥インフルエンザの陽性反応確認に伴い、町対策本部要請により消防隊1隊による警戒パトロール実施(～25日・29日～1月3日まで)	
29	2.	2	白老・石山・萩野・北吉原地区の老朽化消火栓40基更新	
		3	全地区の消防防災用動力サイレン6基更新(全5.5W)	
	3.	22	空気呼吸器(ドレーゲル)本体5セット・軽量ポンペ10本・50ミリホース20本購入 消防署に更新配置(特定防衛施設周辺整備調整交付金)	
		31	消防広域化の協議機関であった東胆振広域圏振興協議会が解散	
	31	第10代消防長・中村 諭退任		

年 月 日		内 容
平成29	4. 1	第11代消防長・越前 寿、第9代消防署長・渡辺一雄、本部消防課長・早弓 格 就任
	1	緊急通報システム更新、直通方式からコールセンター方式に変更して運用開始
	8. 29	北朝鮮弾道ミサイル北海道上空通過に伴う警戒体制(消防長役場対策本部待機)
	9. 15	2回目の北朝鮮弾道ミサイル北海道上空通過に伴う警戒体制(消防長役場対策本部待機)
	15	婦人防火クラブ連合会に救急用訓練人形を日本防火協会・防災協会から交付
	18	町内3会場で婦人対象の普通救命講習会を開催100人参加
		台風18号通過により大雨・洪水・暴風・波浪警報発令。土砂災害警戒情報発表、町内の土砂災害危険地区に避難勧告発令、広報隊4隊出動、敷生川氾濫危険による避難勧告発令、広報隊1隊出動し対応にあたる。萩野地区住民14名は萩野生活館に1名・萩野小学校に13名、竹浦地区住民6名は竹浦コミセンに、虎杖浜地区住民1名は虎杖浜生活館に避難。国道36号線竹浦橋にたわみが生じたため通行止めとなり迂回措置実施。暴風により家屋被害3件及び白老地区に停電発生、町内各所の道路冠水被害3か所発生
	10. 16	一般社団法人北海道消防設備協会苦小牧・室蘭支部より訓練用消火器2本、標的1セット寄贈を受ける(3か年で消火器7本・標的6セット)
	11. 3	町定例表彰式において「防災功労」として危険物安全協会会員2事業所が町長表彰を受ける
	27	携帯電話119番受信設備をIP電話受信併用方式に変更して更新(簡易型位置情報システムと連動)
	12. 1	消防団用救助資器材等一式(手動式油圧救助器具・エンジンカッター・チェーンソー・簡易破壊器具・発動発電機・LED現場照明・携帯投光器・ハンドマイク・防火衣セット4組)購入、白老分団に配置(特定防衛施設周辺整備調整交付金)
	25	低気圧接近による暴風警報発令、屋根飛散危険排除のため消防隊1隊出動し対応にあたる。非住居家屋被害9件発生
30	1. 16	消防庁違反是正アドバイザー派遣事業により、札幌市消防局から講師を招き「違反是正研修会」開催、当町職員のほか胆振管内の消防本部に案内、合計53名出席
	2. 28	白老地区の老朽化消火栓5基更新
	3. 1	低気圧による暴風・波浪警報発令。看板飛散危険排除のため消防隊1隊出動、胆振海岸に水防警報発令、各地区消防団が出動し海岸の警戒にあたる
	27	空気呼吸器(ドレーゲル)本体5セット・軽量ポンペ10本・消防用ホース65ミリ20本・50ミリ20本購入、消防署に配置(特定防衛施設周辺整備調整交付金)
	31	第7代消防団長・松田喜代一退任 白老婦人防火クラブ連合会第3代会長・本間ユキ子氏退任
	4. 1	消防団員年額報酬を24年ぶり増額改正
	1	第8代消防団長・鈴木靖男就任
	1	「白老町婦人防火クラブ連合会」を「白老町女性防火クラブ連合会」に改称、会長吉田ユミ子氏就任(通算第4代)
	1	携帯電話4台をスマートフォンに変更「救急ボイストラ(多言語音声翻訳アプリ)」導入
	1	救急統計システム「ベストル119」導入
12	一般社団法人北海道消防設備協会苦小牧・室蘭支部と「火災現場における使用消火器の消火薬剤無償詰替」に関する協定を締結	
29	元消防本部主幹・八木正幸氏、瑞宝単光章を受ける	
6. 1	119番通報時の外国語対応のため「どこでも☆通訳(通訳を交えた3者間同時通話装置)」を導入	
30	象徴空間慰霊施設敷地内に40t耐震型防火水槽設置	
7. 4	胆振地方消防訓練大会(苦小牧市開催)小型ポンプ操法の部において、12年ぶりに上位入賞(準優勝・虎杖浜分団)	

年月日	内 容
平成30	<p>9. 4 台風21号通過に伴う大雨・洪水・暴風警報発令に伴い、暴風による被害発生消防隊4隊出動して対応にあたる。白老地区住民6名は白老コミセンに、萩野地区住民14名は萩野生活館に、竹浦地区住民6名は竹浦コミセンに、虎杖浜地区住民1名は虎杖浜生活館に自主避難、屋根飛散等により住家被害3件、非住家被害2件、倒木被害53件及び町内各地区に停電発生(消防本部庁舎含む:非常用発電機にて運用)</p> <p>9. 6 胆振東部で震度7の地震発生(当町震度5弱)北電厚真火力発電所が被災して北海道全域に停電発生 消防隊6隊、救助隊1隊、救急隊2隊により全町内警戒出動(ガス漏れ警戒3件、灯油漏れ警戒2件、自火報発報3件、救急出動1件対応)停電関連活動として消防隊2隊、救急隊1隊により支援出動(住民安否確認1件実施、3施設に給水対応)以降、余震時及び通電時にも警戒出動する。町内全体で公共施設3施設、住家1戸、非住家1戸、少量危険物貯蔵所2か所被害を受ける。また、危険物施設関係で地下タンク貯蔵所2か所で異常を確認したため、使用停止命令を発令して点検を指導 他市町村への危険物緊急運搬のための仮取扱承認申請2件を承認</p> <p>6 北海道広域消防相互応援協定に基づき、消防隊1隊5名を3日間にわたり厚真町に派遣し、土砂崩れ現場にて救助活動に従事した。また、東胆振広域応援協定に基づく行政応援のための人員搬送業務にあたる。</p> <p>12 北海道広域消防相互応援協定により道南ブロック消防本部にて厚真町に指揮支援隊1隊、消防隊1隊、救急隊1隊を警戒配備。14日から当町消防隊4名(9月30日まで延べ7日間)、救急隊3名(10月5日1日間)を派遣(道南ブロックとしては10月12日まで)</p> <p>10. 1 指定寄付により、現場活動用サーモグラフィカメラ1台、原因調査用一眼レフカメラレンズ・防滴ストロボ購入</p> <p>11. 3 町定例表彰において「防災功労」として危険物安全協会会員3事業所が町長表彰を受ける</p> <p>12. 10 指定寄付により、通信指令室情報液晶モニター(49インチ1台)監視カメラ用液晶モニター(24インチ2台)購入</p> <p>20 前団長 松田喜代一氏より、展示用纏1基・行事用テント1張寄贈</p> <p>25 消防団現場活動用資器材一式(手動式油圧救助器具・エンジンカッター・チェーンソー・簡易破壊器具・発動発電機・LED現場照明・携帯投光器・ハンドマイク・防火衣セット4組)購入、萩野分団に配置(特定防衛施設周辺整備交付金)</p> <p>31 2. 15 高規格救急車1台購入、本署に更新配置(救急3 特定防衛施設周辺整備交付金)救急3更新に伴い、救急2を西部出張所に配置換え</p> <p>3. 12 指定寄付により、災害用ワンタッチテント1張購入</p> <p>18 胆振東部地震における消防応援活動に対し、北海道知事より表彰を受ける。</p> <p>20 老朽化消火栓 社台地区2基更新(国道拡幅関連)、白老地区1基更新・1基新設(象徴空間関連)、石山地区1基更新</p> <p>26 消防団現場活動用資器材一式(手動式油圧救助器具・エンジンカッター・チェーンソー・簡易破壊器具・発動発電機・LED現場照明・携帯投光器・ハンドマイク・防火衣セット4組)購入、竹浦分団に配置(特定防衛施設周辺整備交付金)</p> <p>29 消防用ホース65ミリ20本、50ミリ20本・救命索発射銃・空気式救助マット・LEDバルーン投光器・発電機付投光器購入、消防署に配置(特定防衛施設周辺整備交付金)</p> <p>3. 31 第9代消防署長 渡辺一雄退任</p> <p>31 4. 1 消防団員の費用弁償の一部を25年振りに増額改正</p> <p>1 職員定数を23年振りに55人に増員改正 機構改革により消防署の当直に課長職(署参事)2名配置、初の女性消防士1名採用(第144期初任教育課程入校)</p> <p>1 第10代消防署長 笠原勝司、本部予防課長 後藤 悟、消防署参事 青木承弥 久保 貢就任 役場総務課危機管理室に1名派遣(併任発令)</p> <p>1 白老危険物安全協会会長を日本製紙(株)北海道工場の体制変更に伴い、白老事業所長から北海道工場安全環境管理室長に変更</p>
令和元	<p>5. 21 前団長・松田喜代一氏、瑞宝双光章 元萩野分団長・松田俊克氏、瑞宝単光章を受ける</p>

年月日	内容
令和元	5. 27 一般職1名を初めて消防大学校実務講習(査察業務マネジメントコース)に派遣
	6. 25 消防法令違反対象物に対して、白老町火災条例改正後の違反処理要綱による命令書を初めて交付し公示した(7月9日付で改善)
	8. 17 台風10号から変わった低気圧の通過に伴い、強風による被害が発生し消防隊1隊が出動して対応にあたる。白老地区住民7名は白老コミセンに、萩野地区住民1名は萩野生活館に、北吉原地区住民3名は北吉原ふれあいプラザに自主避難、屋根飛散等による被害、倒木被害及び町内竹浦地区の一部に停電発生
	20 外国人の緊急通報に対し、昨年度導入した「通訳を交えた3者間同時通報装置」を使用した緊急通報対応訓練を、町内在住のニュージーランド人及びベトナム人の協力により初めて実施 2日間で職員38名が参加
	21 一般社団法人北海道消防設備協会苫小牧・室蘭支部より訓練用水消火器2本、PR用ボールペンの寄贈を受ける
	9. 26 消防団現地教育訓練として、消防団員等公務災害補償等共済基金事業「消防団員健康づくりセミナー」を実施、胆振管内の職団員75名が受講
	10. 1 現場指揮活動要綱制定 指揮隊運用開始
	24 消防庁女性活躍推進アドバイザー派遣事業により、札幌市消防局から講師を招き「女性活躍推進研修」開催 当町職員44名のほか西胆振行政組合から1名出席
	26 台風21号から変わった低気圧による高波により、胆振海岸に水防警報発令、消防署3隊、消防団5隊出動して海岸の警戒にあたる
	11. 3 元虎杖浜分団長・木村信四郎氏、瑞宝単光章を受ける
	5 北海道防災航空隊との合同訓練を白老滑空場にて初めて実施 ヘリコプターからのホイストによる隊員降下・舟形担架吊り上げ及び救急隊への引継ぎ・無線交信要領を実施 職員30名が参加
	15 町定例表彰式において「防災功労」として危険物安全協会会員2事業所が町長表彰を受ける
2	1. 1 年間救急出動件数が初めて1,000件突破(令和元年1,024件搬送人員963人)
	30 低気圧による高波により、胆振海岸に水防警報発令、消防署1隊、消防団5隊が出動して海岸の警戒にあたる
	2. 23 胆振管内の新型コロナウイルス感染発生に伴い、町に「新型コロナウイルス感染危機管理対策本部」設置
	25 道内の新型コロナウイルス感染拡大に伴い、消防学校第145期初任教育が期間前に修了、入校中の職員2名が帰町
	28 新型コロナウイルス感染拡大に備えて、北海道が「緊急非常事態宣言」を発表
	3. 2 新型コロナウイルス感染疑似患者を搬送した救急隊員3名に自宅待機要請(未感染のため2日で解除)
	11 新型コロナウイルス感染症の世界的感染拡大を受けて、WHOが「パンデミック宣言」を発表
	15 老朽化消火栓 社台地区7基移設更新(国道拡幅関連)、白老地区2基新設・2基移設更新(ウポポイ・駅北関連) 防火水槽 社台地区1基マンホール嵩上げ(国道拡幅関連)
	19 北海道が「新型コロナウイルス感染拡大緊急非常事態宣言」を緩和
	26 消防用ホース65ミリ、50ミリ各20本・高性能トランシーバー4台・ガンタイプノズル2本・簡易ポンププロポーションナー・フォームガン・ホースバック購入、消防署に配置(特定防衛施設周辺整備交付金)
	国が「新型コロナウイルス感染症対策本部」設置
	30 消防団現場活動用資器材一式(手動式油圧救助器具・エンジンカッター・チェーンソー・簡易破壊器具・発動発電機・LED現場照明・携帯投光器・ハンドマイク・防火衣セット4組)購入、虎杖浜分団・社台分団に配置し全分団配置完了(特定防衛施設周辺整備交付金)
	31 第11代消防長・越前 寿退任
2	4. 1 第12代消防長・笠原勝司、第11代消防署長・早弓 格、本部予防課長・本間佳令就任 役場総務課危機管理室への職員派遣継続

歴代消防長・署長・課長職

消 防 長

	氏 名	在 任 期 間	備 考
初 代	長 井 忠 典	自 昭和46年 6月 1日 至 昭和46年 7月16日	助役・事務取扱
2 代	佐々木 時美	自 昭和46年 7月17日 至 昭和47年 8月31日	
3 代	松 田 賢 吾	自 昭和47年 9月 1日 至 昭和54年 4月28日	
4 代	金 谷 忠 彦	自 昭和54年 6月 1日 至 平成 3年 3月31日	
5 代	作 田 利 昭	自 平成 3年 4月 1日 至 平成 3年 6月30日	助役・事務取扱
6 代	青 山 照 躬	自 平成 3年 7月 1日 至 平成 6年 3月31日	
7 代	佐々木 芳孝	自 平成 6年 4月 1日 至 平成10年 3月31日	
8 代	高 田 和 幸	自 平成10年 4月 1日 至 平成16年 2月29日	
9 代	前 田 登志和	自 平成16年 3月 1日 至 平成26年 3月31日	
10代	中 村 諭	自 平成26年 4月 1日 至 平成29年 3月31日	
11代	越 前 寿	自 平成29年 4月 1日 至 令和 2年 3月31日	
12代	笠 原 勝 司	自 令和 2年 4月 1日	

消 防 署 長

	氏 名	在 任 期 間	備 考
初 代	佐々木 時美	自 昭和47年 4月 1日 至 昭和47年 6月30日	消防長・事務取扱
2 代	松 田 賢 吾	自 昭和47年 7月 1日 至 昭和54年 4月28日	消防長・事務取扱
3 代	金 谷 忠 彦	自 昭和54年 6月 1日 至 昭和60年12月31日	消防長・事務取扱
4 代	高 田 和 幸	自 昭和61年 1月 1日 至 平成13年 3月31日	消防長・事務取扱
5 代	前 田 登志和	自 平成13年 4月 1日 至 平成16年 2月29日	
6 代	鎌 田 正 平	自 平成16年 3月 1日 至 平成20年 3月31日	
7 代	中 村 諭	自 平成20年 4月 1日 至 平成26年 3月31日	
8 代	越 前 寿	自 平成26年 4月 1日 至 平成29年 3月31日	
9 代	渡 辺 一 雄	自 平成29年 4月 1日 至 平成31年 3月31日	
10代	笠 原 勝 司	自 平成31年 4月 1日 至 令和2年 3月31日	
11代	早 弓 格	自 令和 2年 4月 1日	

本 部 課 長 職

	氏 名	在 任 期 間	備 考
本部次長	高 田 和 幸	自 平成 2年 4月 1日 至 平成16年 2月29日	
本部次長	前 田 登志和	自 平成16年 3月 1日 至 平成19年 3月31日	
本部参事	中 村 諭	自 平成19年 4月 1日 至 平成20年 3月31日	予防担当
消防管理課長	越 前 寿	自 平成21年 4月 1日 至 平成26年 3月31日	
消防管理課長	中 村 諭	自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月31日	消防長・事務取扱
消防課長	渡 辺 一 雄	自 平成27年 4月 1日 至 平成29年 3月31日	
予防課長	笠 原 勝 司	自 平成27年 4月 1日 至 平成31年 3月31日	
消防課長	早 弓 格	自 平成29年 4月 1日 至 令和 2年 3月31日	
予防課長	後 藤 悟	自 平成31年 4月 1日 至 令和 2年 3月31日	
消防課長	後 藤 悟	自 令和 2年 4月 1日	
予防課長	本 間 佳 令	自 令和 2年 4月 1日	

消 防 署 課 長 職

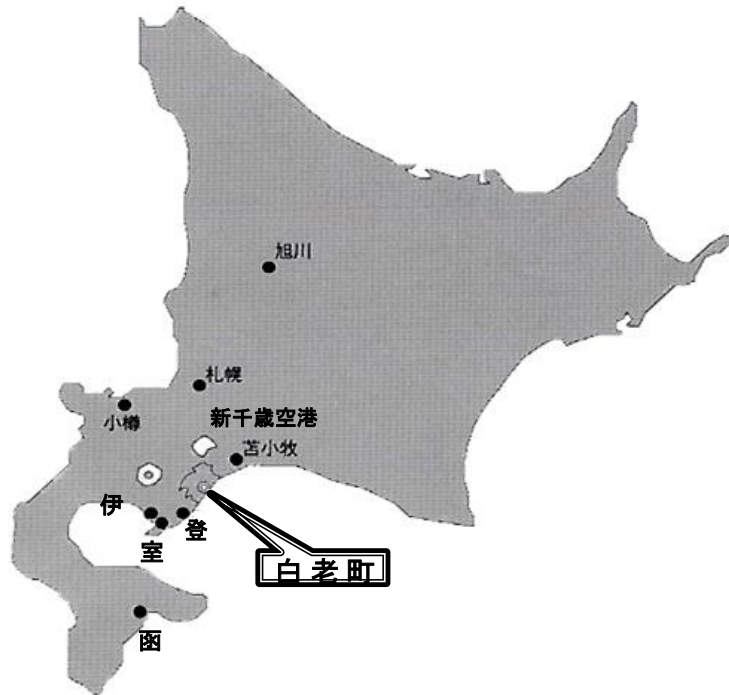
	氏 名	在 任 期 間	備 考
消防署参事	青 木 承 弥	自 平成31年 4月 1日	
消防署参事	久 保 貢	自 平成31年 4月 1日	

歴代消防団長

消 防 団 長			
	氏 名	在 任 期 間	備 考
初 代	金 田 光 蔵	自 昭和22年 8月31日 至 昭和23年 3月 8日	
2 代	久 保 金 次	自 昭和23年 5月 1日 至 昭和30年 9月20日	
3 代	本 間 松 吉	自 昭和31年 5月 1日 至 昭和51年12月31日	
4 代	町 田 俊 光	自 昭和52年 1月 1日 至 平成 4年12月31日	
5 代	須 貝 竹 寿	自 平成 5年 1月 1日 至 平成12年12月31日	
6 代	木 下 助五郎	自 平成13年 1月 1日 至 平成20年 3月31日	
7 代	松 田 喜代一	自 平成20年 4月 1日 至 平成30年 3月31日	
8 代	鈴 木 靖 男	自 平成30年 4月 1日	

2 白老町の概要

(1) 白老町の位置



白老とは、アイヌ語で「虻の多い所」と言う意味の言葉「シラウオイ」からきたと言われてます。

当町は、北海道の南西部に位置し、東隣に苫小牧市、西隣に登別市が接し、北海道の表玄関である新千歳空港からは、道央自動車道を利用すると30分程度のアクセス環境に恵まれるとともに、南東は洋々たる太平洋、北西にはホロホロ山をはじめとする壮大な山岳地帯が広がり、夏は涼しく、冬は雪の少ない気候と、ポロト湖、インクラの滝など自然環境に恵まれた暮らしやすい町です。

平成7年には地方港湾白老港商港区が供用開始され、今では荷物取扱量が地方港湾としては平成19年より11年連続の全道一となっています。平成10年には、念願の白老町と伊達市大滝区を結ぶ主要道道白老・大滝線(四季彩街道)が開通、太平洋と日本海を結ぶ物流拠点として自然を生かした観光や文化交流などに大きな期待が寄せられており、2020年からは通年通行が可能となりました。

また、当町は「食材王国しらおい」として黒毛和牛の白老牛、虎杖浜ブランドで全国的に有名なたらこ、北海道有数の生産量を誇る椎茸や卵など、北海道は美食の宝庫です。

2020年にはアイヌ文化復興の拠点となる「民族共生象徴空間(ウポポイ)」が開設され、国立アイヌ民族博物館・国立民族共生公園が設置されました。

位 置		広 表		面 積
北 緯	東 経	東 西	南 北	
42° 42′ 59″	141° 05′ 03″	28.0 km	26.4 km	425.64 Km ²

(2) 町内地区別の人口と世帯数

(令和 2年 4月 1日 現在)

区 分	計	男	女	世 帯 数
社 台	750	369	381	446
白 老	7,396	3,559	3,837	4,119
森 野	1	1	0	1
石 山	916	433	483	559
萩 野	2,336	1,118	1,218	1,275
北吉原	1,789	842	947	1,027
竹 浦	1,852	848	1,004	1,158
虎杖浜	1,431	660	771	789
合 計	16,471	7,830	8,641	9,374

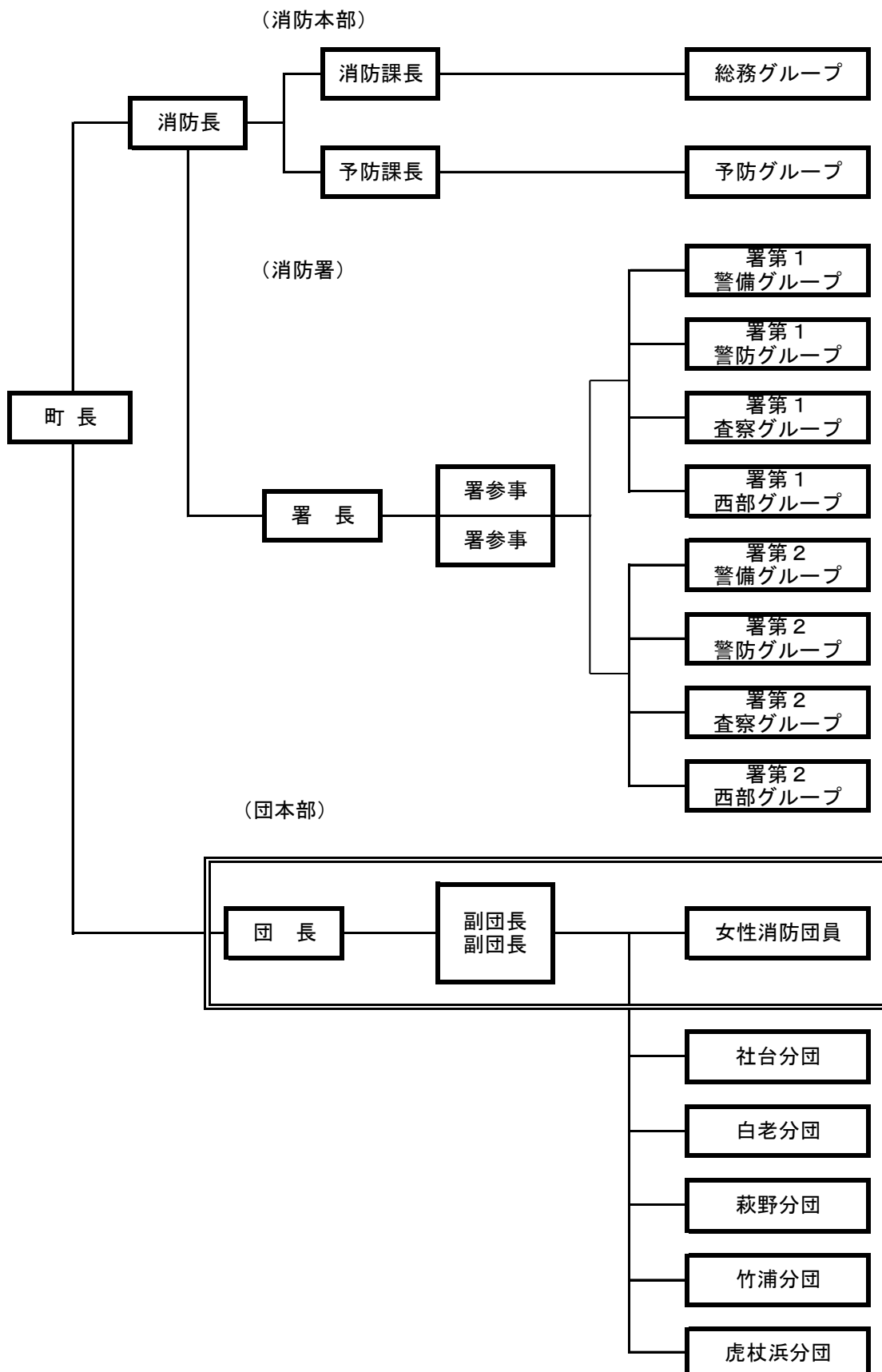
(3) 消防装備と人口等の比較

(令和 2年 4月 1日 現在)

消防吏員1人に対して			消防団員1人に対して			消防車両1台に対して		
面積	世帯	人口	面積	世帯	人口	面積	世帯	人口
(km ²)	(戸)	(人)	(km ²)	(戸)	(人)	(km ²)	(戸)	(人)
8.0	176.9	310.8	3.4	75.0	131.8	23.7	520.8	915.1
吏員 53 人			団員 125 人			消防車両 18 台		

3 消防組織と現有力

(1) 消防組織図(グループ制)



(2) 職員配置状況

区 分	総 員	司令長	司 令		司令補	士 長	消防士
			課長職	主幹職			
総 数	53	1	5	8	10	8	21

()は署との兼務者

【消防本部】							
消 防 長	1	1					
【消防課】							
消防課長	1		1				
総務G	3 (2)			1 (1)	1 (1)		1
【予防課】							
予防課長	1		1				
予防G	3			1		2	
新採用者	4						4
役場併任(主査)	1				1		
本 部 計	14 (2)	1	2	2 (1)	2 (1)	2	5

()は本部との兼務者

【消防署】							
署 長	1		1				
参 事	2		2				
署第1	19 (1)			4 (1)	4	3	8
署第2	19 (1)			3	5 (1)	3	8
署 計	41 (2)		3	7 (1)	9 (1)	6	16

(3) 職員勤続年数・年齢調

区 分	計	司令長	司 令	司令補	士 長	消防士
総 数	53	1	13	10	8	21
勤続年数別						
1 年 未満	4					4
1 ~ 5年 未満	13					13
5 ~ 10年 未満	7				3	4
10 ~ 15年 未満	4				4	
15 ~ 20年 未満	2			1	1	
20 ~ 25年 未満	5		1	4		
25 ~ 30年 未満	7		3	4		
30 ~ 35年 未満	3		3			
35 年 以上	8	1	6	1		
平均勤続年数	16	40	31	29	10	3
年 齢 別						
18才 ~ 20才	3					3
21才 ~ 25才	13					13
26才 ~ 30才	8				3	5
31才 ~ 35才	3				3	
36才 ~ 40才	3			1	2	
41才 ~ 45才	9		2	7		
46才 ~ 50才	3		2	1		
51才 ~ 55才	3		3			
56才 ~ 60才	8	1	6	1		
平均年齢	36	59	50	42	31	24

(4) 団員階級別・就業別数

()は女性団員

区 分	計	団 本 部	社 台 分 団	白 老 分 団	萩 野 分 団	竹 浦 分 団	虎杖浜 分 団
階 級 別							
団 長	1	1					
副 団 長	2	2					
分 団 長	5		1	1	1	1	1
副分団長	5		1	1	1	1	1
部 長	20 (2)	2 (2)	3	4	4	3	4
班 長	38 (2)	2 (2)	6	8	7	7	8
団 員	54 (8)	6 (6)	9	11	9	9	10
計	125 (10)	13 (10)	20	25	22	21	24
入 団	2 (0)	(0)		2			
退 団	3 (0)	(0)		2			1
就 業 別							
自営業者	25	1	6	6	1	5	6
被 用 者	78 (10)	10 (10)	11	15	18	14	10
家族従業者	19		3	3	3	2	8
そ の 他	3	2		1			
計	125 (10)	13 (10)	20	25	22	21	24

(5) 団員勤続年数・年齢調

()は女性団員

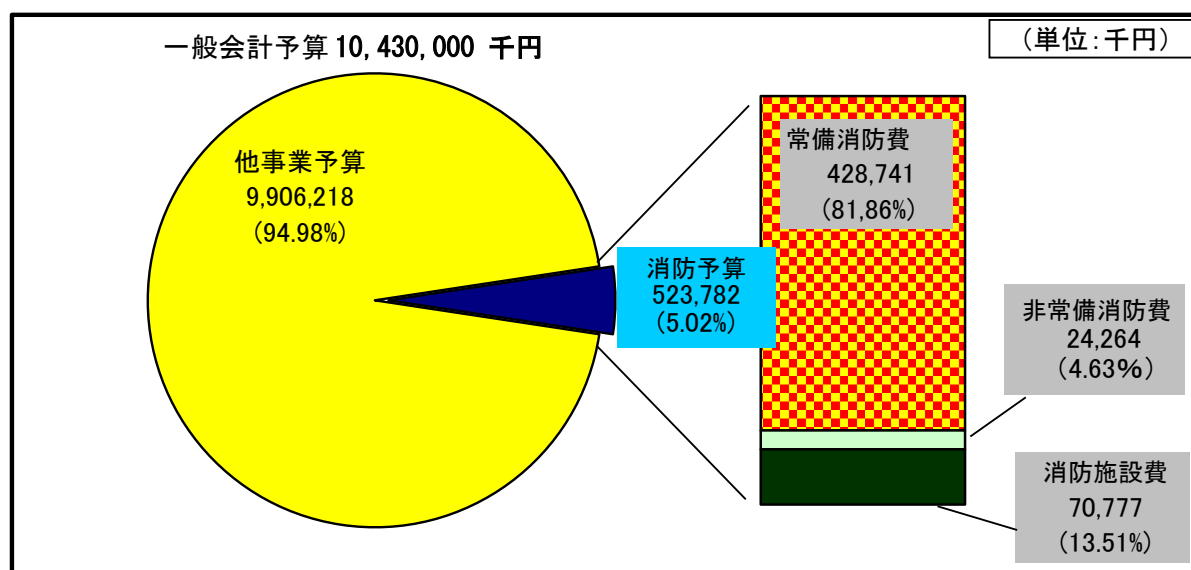
区 分	計	団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員
総 数	125 (10)	1	2	5	5	20 (2)	38 (2)	54 (6)
勤続年数別								
5 年 未 満	26 (3)							26 (3)
5～10年 未 満	22 (2)						5	17 (2)
10～15年 未 満	11 (1)						5	6 (1)
15～20年 未 満	24 (3)					4 (1)	16 (2)	4
20～25年 未 満	19 (1)			2		7 (1)	9	1
25～30年 未 満	5				1	3	1	
30～35年 未 満	12			1	3	6	2	
35 年 以 上	6	1	2	2	1			
平均勤続年数	15 (10)	38	45	31	33	24 (21)	17 (16)	6 (6)
年 齢 別								
20才 未 満								
20才～25才	9							9
26才～30才	9 (1)						1	8 (1)
31才～35才	10 (1)					1	2	7 (1)
36才～40才	18 (1)						6	12 (1)
41才～45才	13 (1)					1	6	6 (1)
46才～50才	25 (3)					6 (1)	9 (1)	10 (2)
51才～54才	15 (2)			1		4	8 (1)	2 (1)
55才 以 上	27 (2)	1	2	4	5	8 (1)	6	(1)
平均年齢	45 (46)	79	69	58	60	53 (51)	48 (54)	36 (42)

4 消防庁舎等の現況

消防本部・消防署・消防団本部庁舎									
		(国土交通省北海道開発局 樽前山火山対策防災拠点施設併設)							H19築
所在地	石山20番地の24								
構造等	鉄筋コンクリート造	地上2階、地下1階	延2,715.5㎡	(消防用途面積 1,634.5㎡)					
消防署・西部出張所庁舎									S55築
所在地	虎杖浜13番地の1								
構造等	鉄筋コンクリート造	平屋建	延282㎡						
消防団・社台分団詰所・車庫									S41築
所在地	社台58番地の18								
構造等	ブロック造	平屋建	延51.87㎡						
消防団・白老分団詰所・車庫 (役場倉庫・白老町合同会館併用)									S41築
所在地	高砂町1丁目1番50号								
構造等	鉄骨コンクリート一部ブロック造	2階建	延684.36㎡	(分団用途面積 104.5㎡)					
消防団・萩野分団詰所・車庫									H11築
所在地	北吉原86番地								
構造等	木造防火サイディング	平屋建	延66.248㎡						
消防団・竹浦分団詰所・車庫									S44築
所在地	竹浦616番地								
構造等	ブロック造	平屋建	延52.11㎡						
消防団・虎杖浜分団車庫									S48築
所在地	虎杖浜142番地								
構造等	ブロック造	平屋建	延45.2㎡						
消防団・虎杖浜分団詰所									S52築
所在地	虎杖浜74番地の11								
構造等	ブロック造	平屋建	延60.48㎡						
白老・待機宿舎 A (1戸建)									S47築
所在地	大町1丁目9番15号								
構造等	ブロック造	平屋建	延77.209㎡						
白老・待機宿舎 B (1棟4戸・1棟)									S52築
所在地	大町1丁目9番7号								
構造等	ブロック造	2階建	延245.52㎡						
虎杖浜・待機宿舎 A・B (1棟2戸・2棟)									S56築
所在地	虎杖浜14番地								
構造等	木造防火サイディング造	平屋建	延124.74㎡ × 2棟						

5 消防予算

(1) 令和2年度一般会計予算と消防費



(2) 過去3年間の消防予算内訳

(単位:千円)

年 度	一般会計予算	比率	合 計	常 備 消防費	非常備 消防費	消 防 施設費
平成29年度 当 初 予 算 額	9,720,000	4.36	423,415	402,437	16,834	4,144
平成29年度 決 算 額	10,561,725	4.01	423,167	403,322	15,819	4,026
平成30年度 当 初 予 算 額	10,920,000	4.48	488,875	434,027	17,968	36,880
平成30年度 決 算 額	11,338,937	4.28	485,294	427,237	18,914	39,143
令和元年度 当 初 予 算 額	10,980,000	4.14	454,496	416,652	17,959	19,985

※ 常備消防費内には、給与費を含む

予 防 関 係

1 防火対象物の状況

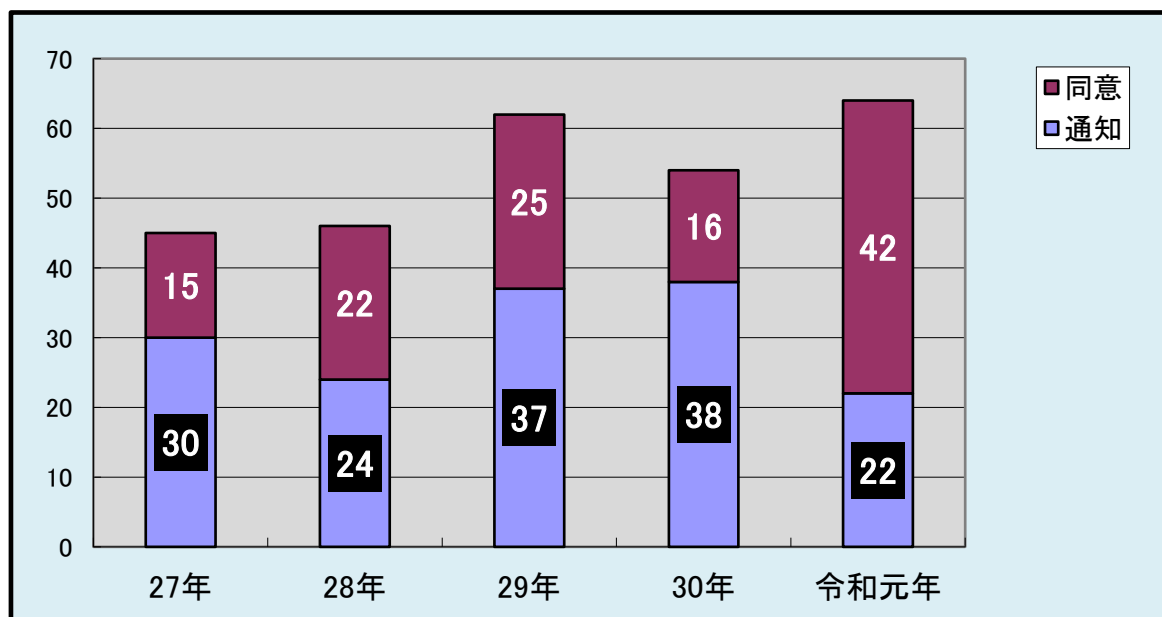
区 分		防火対象物						立入検査実施件数	防火管理者				防火対象物定期点検施設
		対象物数	地上5階未満	地上5階以上	対前年比		甲種選任必要対象物数		同選任対象物数	乙種選任必要対象物数	同選任対象物数		
					前年数	増減							
1	イ	劇場・映画館											
	ロ	公会堂・集会場	33	33		27	6	5	19	19	14	14	
2	イ	カフェ等											
	ロ	遊技場・ダンスホール等	1	1		1			1	1			
3	ロ	飲食店	18	18		14	4		6	5	7	7	1
4		百貨店・マーケット等	26	26		26		4	10	10	13	9	4
5	イ	旅館・ホテル等	42	42		35	7	4	12	12	1	1	3
	ロ	寄宿舎・共同住宅	135	133	2	126	9	111	1	1			
6	イ	病院・診療所等	6	6		6		2	2	2			1
	ロ	短期入所施設・養護老人ホーム等	23	23		22	1	3	9	9			1
	ハ	老人デイサービス・保育所等	22	22		22		2	8	8			
	ニ	幼稚園等											
7		学校(小・中・高・専門学校)	12	12		12		3	11	11			
8		図書館・博物館等	3	3		2	1	1	2	2	1	1	
9	イ	公共浴場のうち、蒸気浴場、熱気浴場、											
9	ロ	9項イに掲げる公衆浴場以外の公衆浴場	5	5		5			2	2	1	1	
10		停車場等											
11		神社・寺院等	8	8		8		4	8	8			
12	イ	工場・作業場	161	157	4	160	1	97	5	5	1	1	
13	イ	駐車場・車庫等	5	5		5		4					
	ロ	飛行機の格納庫	1	1		1		1					
14		倉庫	153	153		152	1	25					
15		上記以外の事業所	214	214		210	4	103	19	19			
16	イ	複合用途防火対象物	56	55	1	51	5	3	31	31	4	4	2
	ロ		27	26	1	27		21	3	3	1	1	
計			951	943	8	912	40	393	149	148	43	39	12

2 建築同意

(1) 月別事務処理状況

区分	計	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
同意	42	2	3	6	6	4	3	1	6	2	1	5	3
不同意													
工事種別													
新築	33	2	2	6	5	2	3	1	3	2	1	4	2
増築	7		1		1	2			2				1
増改築													
用途変更													
工作物													
仮設	2								1			1	
その他													
通知文 (住宅等)	22	4	1		1	2	3	1	1	2	2	3	2
合計	64	6	4	6	7	6	6	2	7	4	3	8	5

(2) 過去5年間事務処理状況

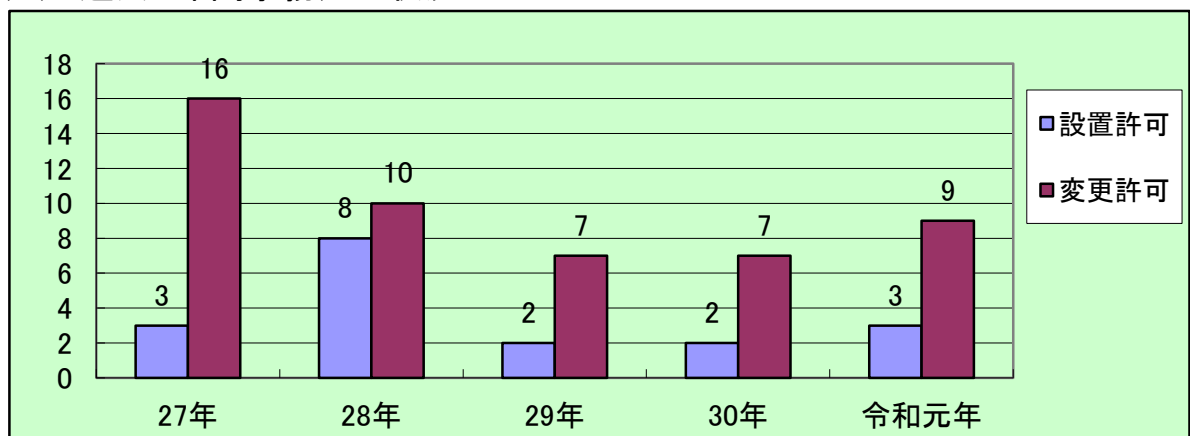


3 危険物施設

(1) 危険物製造所等設置及び事務処理状況、立入検査件数

区 分	許可施設数	許可・検査処置件数										立入検査件数
		設 置					変 更					
		許 可	変 更	完 成	未 完 成	取 下 げ	許 可	変 更	完 成	未 完 成	取 下 げ	
製 造 所	4						2		2			1
貯 蔵 所	141	3		4			2		2			37
屋外タンク貯蔵所	42											31 6
移動タンク貯蔵所	33					2		2				
地下タンク貯蔵所	52	2		3								
屋内タンク貯蔵所												
簡易タンク貯蔵所												
屋 内 貯 蔵 所	8											
屋 外 貯 蔵 所	6	1		1								
取 扱 所	61						5		5			
給 油 取 扱 所	32						2		2			
一 般 取 扱 所	29						3		3			
第一種販売取扱所												
計	206	3		4			9		9			38

(2) 過去5年間事務処理状況



(3) 危険物製造所等数量・類別状況(完成検査済証交付施設)

区 分	合 計	製 造 所	貯 蔵 所								取 扱 所			
			小 計	屋外タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	屋内貯蔵所	屋外貯蔵所	小 計	給油取扱所	一般取扱所	第一種販売取扱所
合 計	205	4	140	42	33	52			8	5	61	32	29	
数 量 別														
5倍以下	78		68	3	30	28			5	2	10	2	8	
5倍を超え 10倍以下	48	4	29	13	1	13				2	15	4	11	
10倍を超え 50倍以下	55		34	20	2	8			3	1	21	12	9	
50倍を超え 100倍以下	14		7	4		3					7	7		
100倍を超え 150倍以下	1		1	1										
150倍を超え 200倍以下	6		0								6	6		
200倍を 超えるもの	3		1	1							2	1	1	
類 別														
第 1 類														
第 2 類														
第 3 類														
第 4 類	202	4	138	41	33	52			7	5	60	32	28	
第 5 類														
第 6 類	1		1	1										
混 載	2		1						1		1		1	

4 火災予防

(1) 法令による届出状況

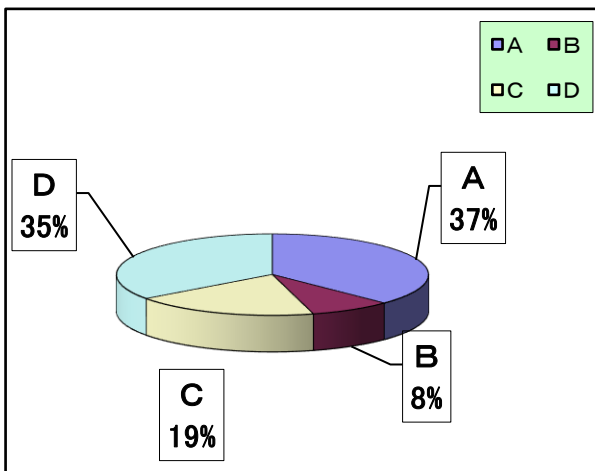
条 項	内 容	件 数
法第8条	消防計画の届出	59
法第8条第2項	防火管理者選(解)任届出	44
法第9条の3	液化石油ガス等貯蔵取扱い届出	3
法第17条の3の3	消防用設備等点検結果報告	661

(2) 消防用設備等設置届出 (法第17条の3の2)

設置数合計 90		消防用設備	届出及び検査	%
<p>■ A-消火器 ■ B-屋内消火栓設備 ■ C-スプリンクラー設備 ■ D-粉末消火設備 ■ E-自動火災報知設備 ■ F-火災通報装置 ■ G-非常警報設備 ■ H-避難器具 ■ I-誘導灯 ■ J-誘導標識 ■ K-パッケージ型消火設備 ■ L-屋外消火栓設備 ■ N-特定小規模施設用自動火災報知設備</p>		A-消火器	18	20%
		B-屋内消火栓設備	3	3%
		C-スプリンクラー設備	1	1%
		D-粉末消火設備	2	2%
		E-自動火災報知設備	22	24%
		F-火災通報装置	5	6%
		G-非常警報設備	6	7%
		H-避難器具	1	1%
		I-誘導灯	9	10%
		J-誘導標識	4	4%
		K-パッケージ型消火設備	6	7%
		L-屋外消火栓設備	1	1%
		N-特定小規模施設用自動火災報知設備	12	13%
				合 計

(3) 火災予防条例に基づく届出

届出及び検査数 合計 308件



	届出及び検査数	%
A-第50条届出	115	37%
B-第51条届出	26	8%
C-第52条届出	59	19%
D-第53条届出	108	35%
合計	308	

第50条 → 防火対象物使用開始届出

第51条 → ボイラー・変電設備届出

第52条 → 道路工事届出、火災とまぎらわしい行為届出、
水道断(減)水工事届出、煙火打上げ届出、催し物開催届出

第53条 → 少量危険物貯蔵取扱い届出、指定可燃物貯蔵届出

(4) 広報活動状況

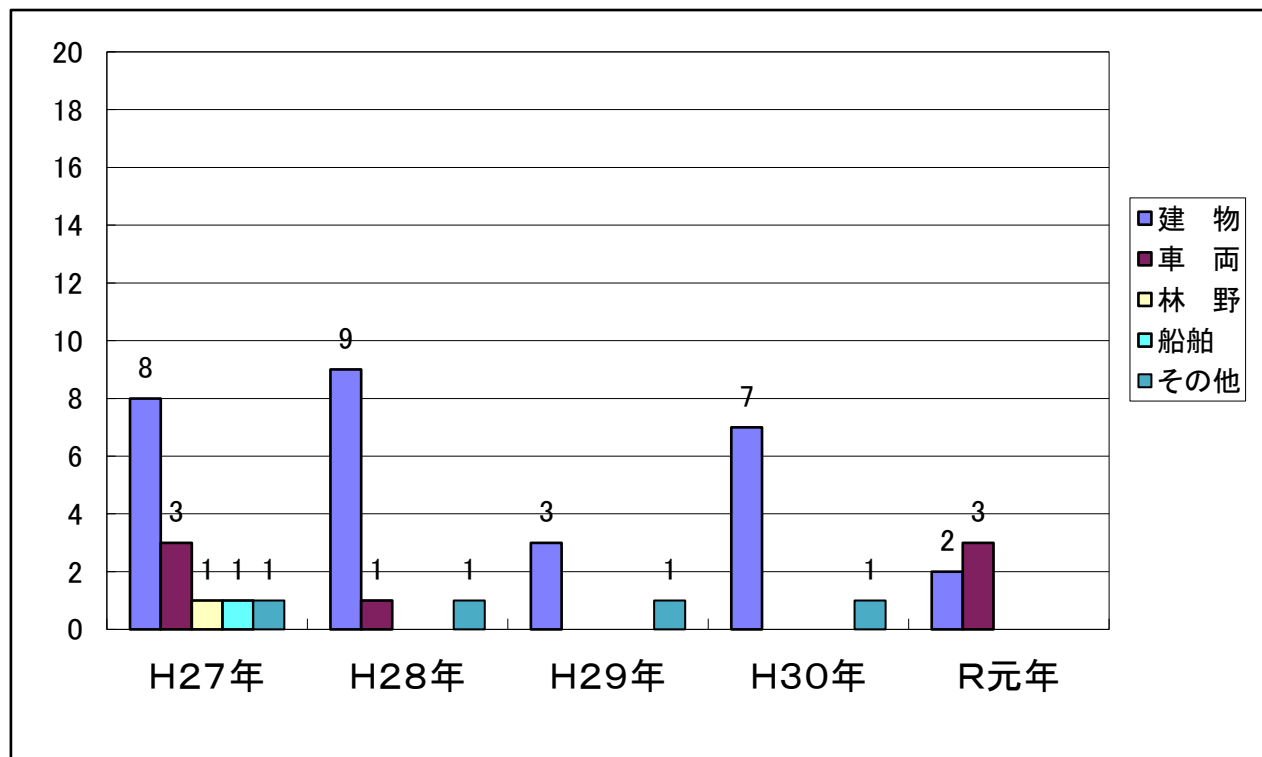
区 分	回 数
各種消防訓練、避難訓練	106 回
巡回広報(車両等による)、火災予防運動、歳末警戒	43 回
町広報誌、新聞等	8 回
看板・チラシ・ポスター等	5,398 枚

5 火災
(1) 火災概要

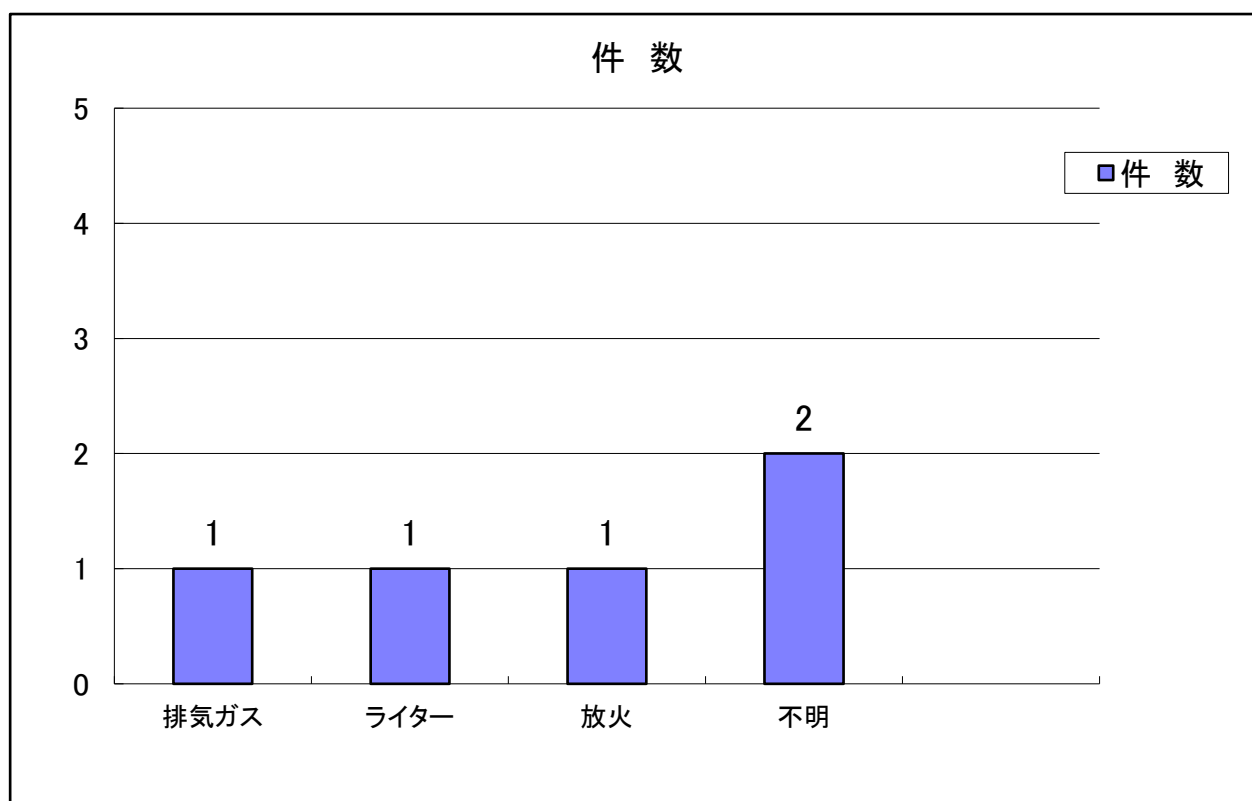
発生順	発生月日 時分	出火場所	用途	出火原因	焼失区分						焼損棟数	焼損面積 (㎡)	罹災世帯数	罹災人員	損害額 (千円)	死傷者			
					火元	焼類			焼							死者	負傷者		
					全焼	半焼	部分焼	ぼや	全焼	半焼	部分焼	ぼや							
1	5月16日 8時40分	字白老	車両	排気ガス管の亀裂によりエンジン内の配線類より出火											450				
2	7月16日 不明	大町	建物	不明	○					○			3	52	236	2	4		
3	9月2日 10時20分	字白老	車両	ごみ収集車ホッパー内の収容物をプレスしたことによりライターに火がつき、可燃物に着火したものである。											73				
4	10月27日 21時30分	字竹浦	建物	不明	○								1	51	697	1	2		
5	11月9日 5時30分	字白老	車両	助手席(座布団)部分に自ら放火し出火											446			1	

(2) 過去5年間火災発生状況

火災種別発生件数



原因発生件数（令和元年）



6 消防協力団体設立状況

名 称	設立年月日	クラブ員数
幼児消防クラブ		
緑丘保育園幼児消防クラブ	昭和59年 7月 1日	44 名
小鳩保育園幼児消防クラブ	平成 5年 5月 1日	44 名
はまなす保育園幼児消防クラブ	平成 5年 5月 1日	45 名
海の子保育園幼児消防クラブ	平成 5年 5月 1日	35 名
さくら幼稚園幼児消防クラブ	平成27年 4月 1日	55 名
女性防火クラブ		
虎杖浜婦人会防火クラブ	昭和55年 4月 3日	47 名
萩野朝霧区婦人会防火クラブ	昭和55年 4月23日	110 名
萩野石山婦人会防火クラブ	昭和55年 5月 1日	79 名
北吉原曙区婦人会防火クラブ	昭和55年10月 1日	4 名
東町第二町内会婦人防火クラブ	平成 5年 4月 1日	104 名
本町婦人会防火クラブ	平成 5年 5月 1日	52 名
栄町第1町内会女性防火クラブ	平成28年 2月 1日	16 名
栄町第2町内会女性防火クラブ	平成28年 2月 1日	20 名
危険物安全協会		
白老危険物安全協会	昭和51年 4月15日	74事業所



令和元年 11 月 6 日 北海道防災ヘリ合同訓練

警 防 関 係

1 出動状況(火災・救助・警防活動)

(1) 火災出動状況

()内は隣接応援

	合 計	建 物	林 野	車 両	船 舶	航 空 機	そ の 他
出動件数	5	2		3			0
出動車両	26	12		14			0
出動人員	72	34		38			0

(2) 救助出動状況

	合 計	火 災	交 通	水 難	自 然 災 害	機 械	建 物	酸 ガ ス 欠 ・	破 裂	そ の 他
出動件数	12		8	1		1				2
出動車両	44		28	4		4				8
出動人員	118		76	10		11				21

(3) 警防業務出動状況

	合 計	火 災 検 索	自 然 災 害	危 険 排 除	支 援 活 動	地 震	そ の 他
出動件数	84		5	1	42	1	35
出動車両	167		10		90	2	65
出動人員	462		29	4	236	8	185

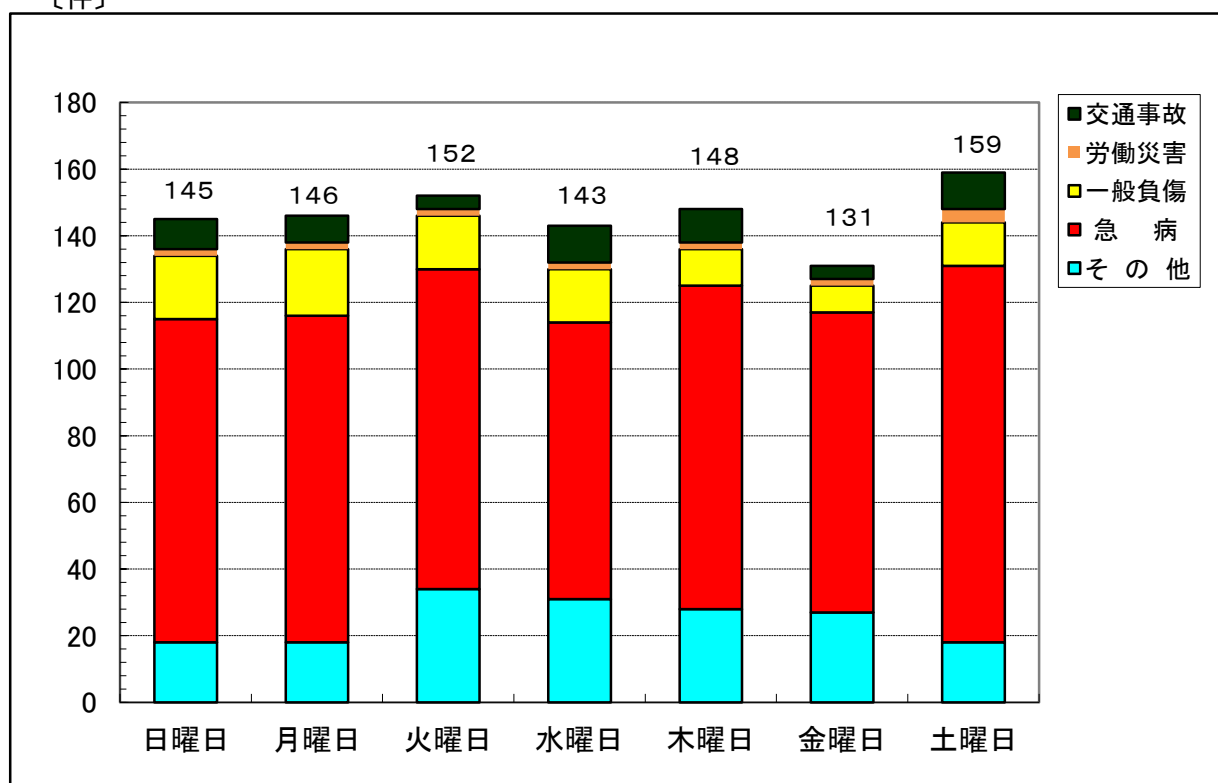
2 救急出動

(1) 月別出動状況

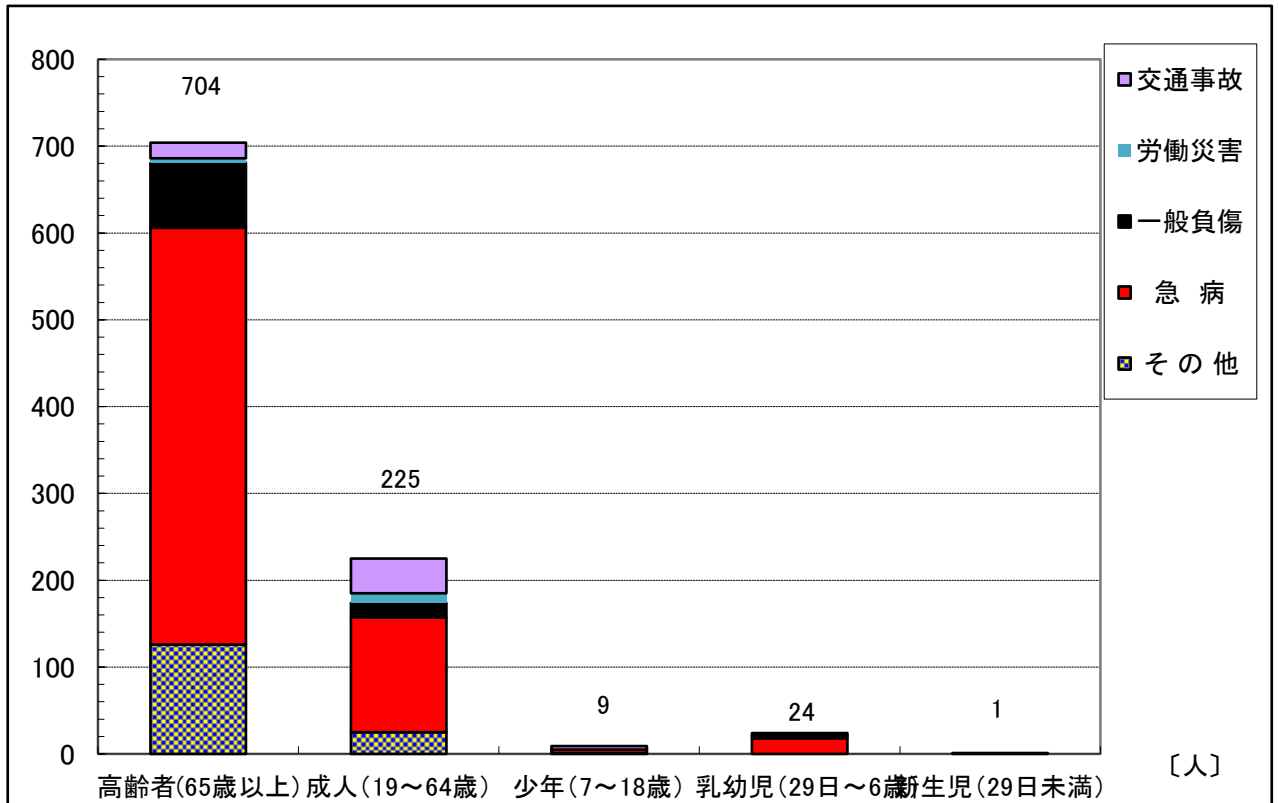
区 分		計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	搬送比率 (%)
合 計	出場件数	1024	84	79	86	69	71	83	94	97	90	77	84	110	
	搬送人員	963	75	66	86	66	65	77	93	94	85	74	82	100	
交通事故	出場件数	57	2	2	6	1	3	4	5	8	4	11	3	8	5.5%
	搬送人員	65	2	2	8	3	2	4	6	8	5	11	5	9	6.7%
労働災害	出場件数	16	1	1	2	1	1	0	1	4	1	3	1	0	1.6%
	搬送人員	16	1	1	2	1	1	0	1	4	1	3	1	0	1.7%
一般負傷	出場件数	103	4	9	9	11	8	6	11	6	12	7	7	13	10.1%
	搬送人員	95	3	6	9	11	8	4	10	5	12	7	7	13	9.9%
急 病	出場件数	675	68	54	53	42	42	61	57	67	59	43	56	73	65.9%
	搬送人員	635	63	47	53	41	39	58	56	67	55	40	53	63	65.9%
そ の 他	出場件数	173	9	13	16	14	17	12	20	12	14	13	17	16	16.9%
	搬送人員	152	6	10	14	10	15	11	20	10	12	13	16	15	15.8%

(2) 曜日別救急出動件数

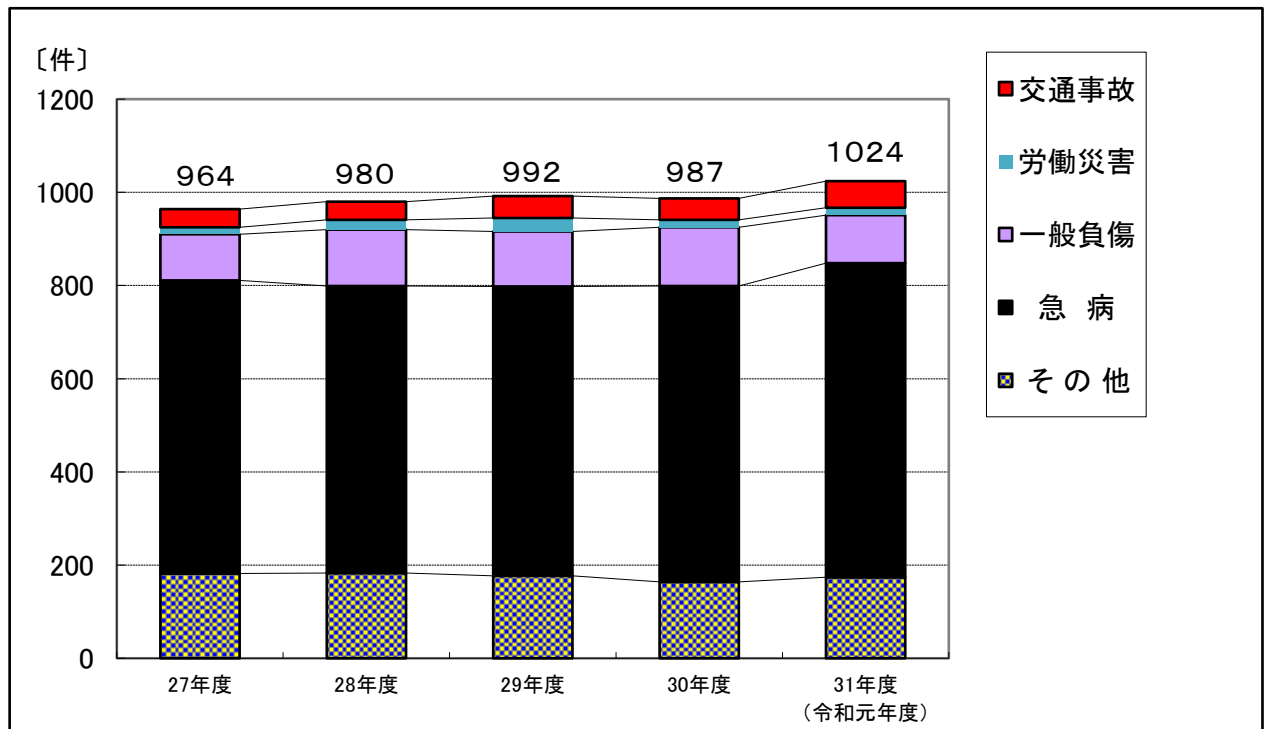
[件]



(3) 年齢別救急搬送人員



(4) 救急出動件数の推移（過去5年間）



3 消防団

年間出動状況

区 分	合 計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
火 災	件数	2						1			1			
	人員	13						6			7			
風水害 災 害	件数	0												
	人員	0												
演 習 訓 練	件数	59	1	5	4	2	8	6	4	11	11	1	5	1
	人員	523	66	34	41	7	62	52	30	74	117	5	33	2
広 報 指 導	件数	1						1						
	人員	6						6						
警 防 調 査	件数	0												
	人員	0												
原 因 調 査	件数	0												
	人員	0												
特 別 警 戒	件数	6		1							2		3	
	人員	123		3							17		103	
搜 索 活 動	件数	0												
	人員	0												
予 防 査 察	件数	27				5	4				15	3		
	人員	222				101	18				92	11		
その他	件数	23	4	2	1	4	2	1	3	1	3		2	
	人員	106	11	11	3	15	11	11	10	1	16		17	
合 計	件数	118	5	8	5	11	14	7	9	12	14	19	10	4
	人員	993	77	48	44	123	91	63	52	75	133	121	61	105

4 消防水利の現況

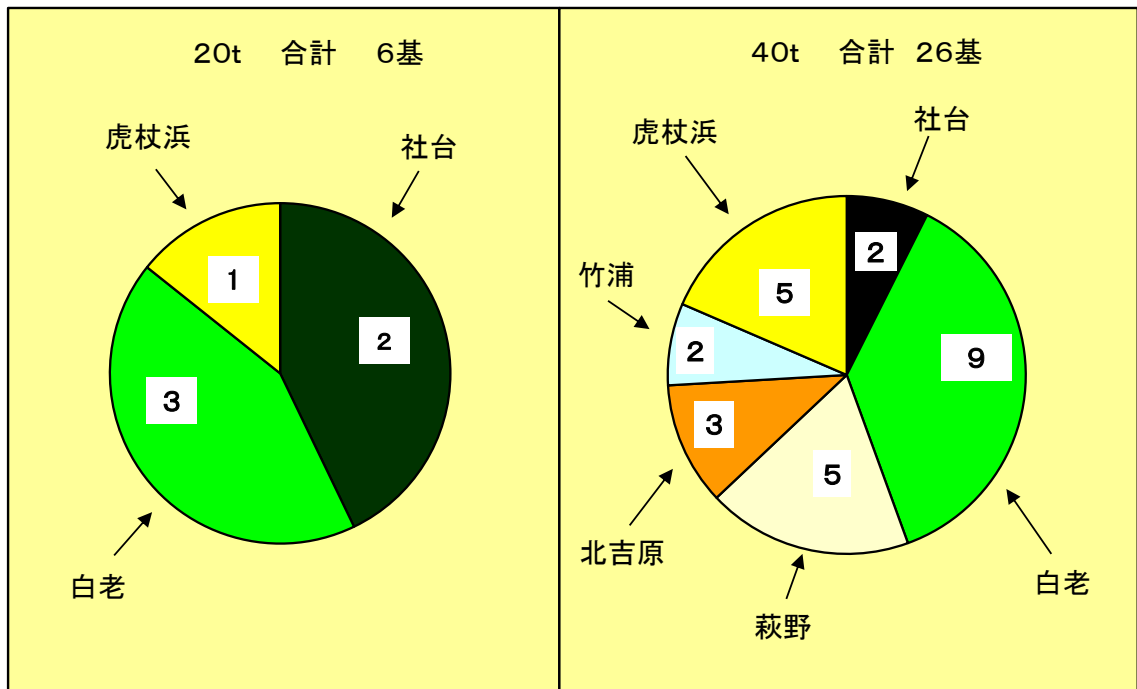
(1) 地区別水利施設数

区分	消 火 栓			貯水槽	河 川	その他	合 計
	公 設	私 設	計				
社 台	32		32	4			36
白 老	129		129	12	2		143
石 山	72		72			1	73
萩 野	59		59	5			64
北吉原	68	7	75	3			78
竹 浦	69		69	2			71
虎杖浜	49		49	6		1	56
合 計	478	7	485	32	2	2	521

※ 「河川」については、取水可能箇所を記載

※ 「その他」については、港湾及び湖

(2) 容量別貯水槽数 水槽数 合計 32基



(3) 配管口径別消火栓

区分 mm	社 台		白 老		石 山		萩 野		北吉原		竹 浦		虎杖浜		計
	公 設	私 設	公 設	私 設	公 設	私 設	公 設	私 設	公 設	私 設	公 設	私 設	公 設	私 設	
75	1		22		7		22		27		27		14		120
100	18		60		40		20		29	7	24		16		214
125															0
150	13		42		20		7		10		7		5		104
200					1		7		2		11		11		32
250					1		3						3		7
300			1		3										4
350															0
400			4												4
計	32		129		72		59		68	7	69		49		485
合 計	32		129		72		59		75		69		49		

機械・通信設備関係

1 現有消防車両一覧

水槽付ポンプ車

車名	配置場所	車種	排気量	規格	購入年月日	年数	備考
消防2号車	消防署	ヒノ・レンジャー	7,960	2.0t A-1	H9.8.28	22	損保協会寄贈
消防3号車	消防署	ヒノ・レンジャー	7,410	1.8t A-2	H5.3.5	27	石油交付金
消防6号車	消防署	ヒノ・プロファイア	8,860	8.0t A-2	H27.12.17	4	石油交付金

普通ポンプ車及び水槽車

車名	配置場所	車種	排気量	規格	購入年月日	年数	備考
消防4号車	出張所	ミツビシ・ファイター 水槽	7,540	3.0t A-2同等	H5.12.15	26	石油交付金
消防5号車	消防署	ヒノ・レンジャー 普通P	7,960	A-1	H13.3.21	19	産業再配置

高規格救急自動車

車名	配置場所	車種	排気量	規格	購入年月日	年数	備考
救急1号車	出張所	ニッサン・パラメディック	3,490	高規格	H23.3.14	9	石油交付金
救急2号車	消防署	ニッサン・パラメディック	3,490	高規格	H26.11.21	5	防衛省交付金
救急3号車	消防署	トヨタ・ハイメディック	2,690	高規格	H31.2.8	1	防衛省交付金

救助工作車

車名	配置場所	車種	排気量	規格	購入年月日	年数	備考
消防8号車	消防署	ニッサン・コンドル	6,920	救助工作	H7.3.20	25	石油交付金

指揮車

車名	配置場所	車種	排気量	規格	購入年月日	年数	備考
指揮1号車	消防署	ニッサン・サファリ	4,160	現場指揮	H11.1.21	21	石油交付金

広報車及び査察車

車名	配置場所	車種	排気量	規格	購入年月日	年数	備考
広報1号車	出張所	ニッサン・ADバン	1,760	広報	H13.2.20	19	石油交付金
広報2号車	消防本部	ニッサン・エルグランド	3,270	人員搬送	H12.1.20	20	石油交付金
原調1号車	消防本部	ニッサン・ホミー	2,950	火災調査	H16.2.23	16	石油交付金
査察1号車	消防本部	スバル・レガシー	1,990	防災指導	H19.2.20	13	日本消防協会還元事業
査察2号車	消防本部	ダイハツ・ムーブ	650	防災指導	H21.9.24	10	白老ライオンズクラブ寄贈

消防団車(小型ポンプ付積載車)

車名	配置場所	車種	排気量	規格	購入年月日	年数	備考
社台分団車	社台	ニッサン・アトラス・シバウラTF	3,150	B-2	H15.3.5	17	石油交付金
白老分団車	白老	ニッサン・アトラス・シバウラTF	3,150	B-2	H19.2.22	13	石油交付金
萩野分団車	萩野	ヒノ・デュトロ・シバウラ	4,610	B-2	H13.3.21	19	産業再配置
竹浦分団車	竹浦	ニッサン・アトラス・シバウラTF	3,150	B-2	H18.2.23	14	石油交付金
虎杖浜分団車	虎杖浜	ニッサン・アトラス・シバウラTF	3,150	B-2	H14.3.13	18	石油交付金

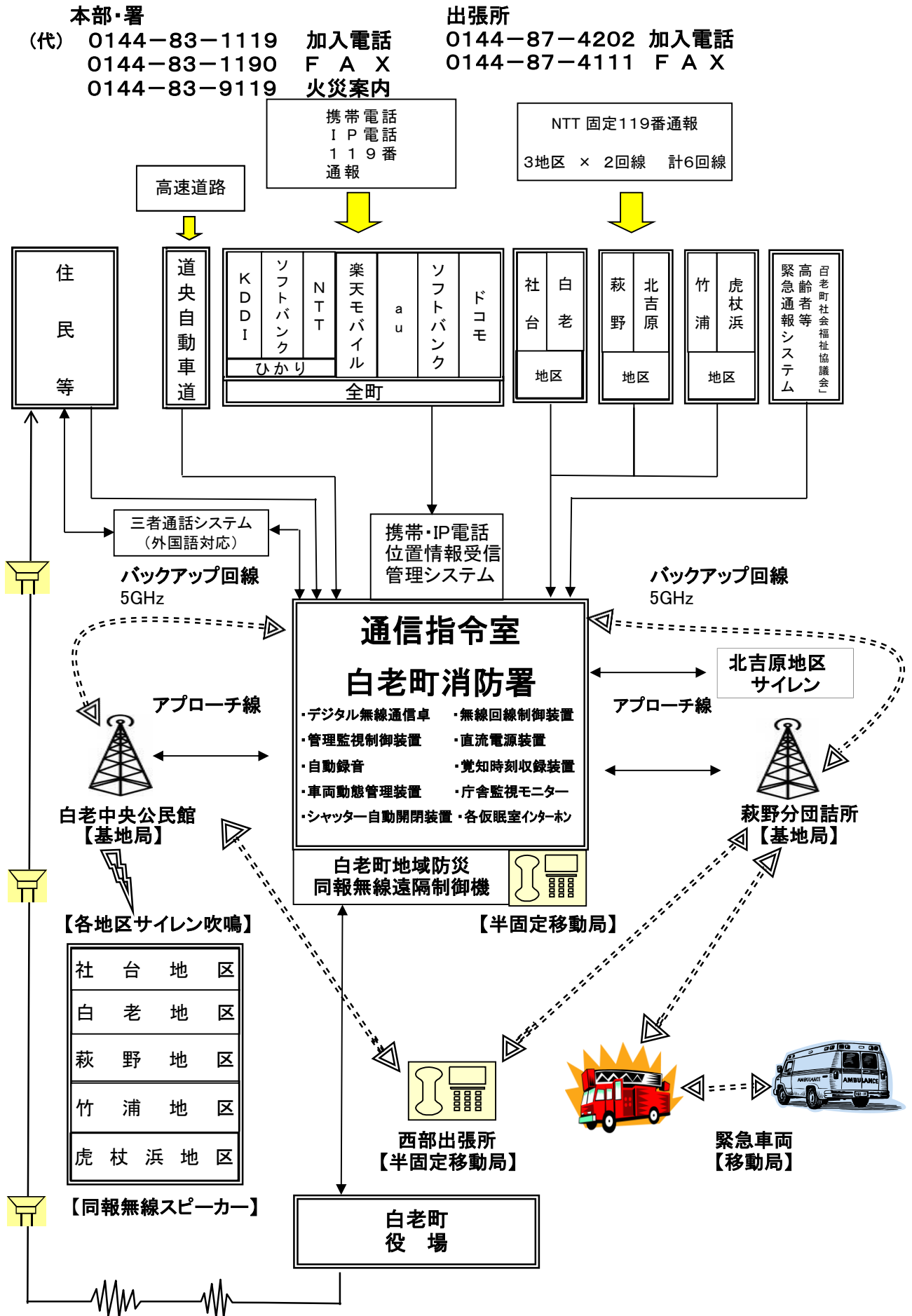
※小型ポンプ

ポンプ名	配置場所	車種	排気量	規格	購入年月日	年数	備考
署1号	消防署	シバウラTF35	436	B-3	S48.3.30	47	石油交付金
署2号	萩野分団	シバウラTF35	436	B-3	S56.11.27	38	石油交付金
署3号	消防署	シバウラTF35	436	B-3	S57.12.24	37	石油交付金

2 特殊資機材一覽

品名	数量	備考
一般用救助器具	救助用担架	3 バスケット担架、スケッドストレッチャー、パーティカルストレッチャー
	鋼製三連梯子	1 AZ-780
	チタン製三連梯子	1 KHA-87
	銅製かぎ付梯子	1 KHFL-36
	チタン製かぎ付梯子	1 KHFL-CT31
	救助用三脚	1 アリゾナポータックス
	救助用縛帯	4 ベツル ピタゴール他
重量物排除器具	油圧ポンプ	2 ホルマトロ エンジンポンプ、フットポンプ
	スプレッダー	1 " 2007
	ラムシリンダー	2 プランジャーラム、テレスコピックラム
	マット型空気ジャッキ	6 40t×2、29t×2、20t×2
	可搬式ウインチ	2 チルホール TU-16・T-7
切断用器具	カッタ	3 ホルマトロ スタンダード、平鋼板用、ペダル用
	空気切断器	1式 エアーツール Aセット
	ガス溶断器	1 ニューチヨバック
	エンジンカッター	3 スチールTS360AVSE×2、TS400
	チェーンソー	2 スチールMS210、C-35
破壊用器具	削岩機	1 マルゼンMA-180
呼吸保護用器具	送排風機	1式 サンキポータブルファン (防爆型)
	空気呼吸器	19 バイタス(4基)、ドレーゲル(15基)
	酸素呼吸器一式	2 カワサキ 10号(予備ボンベ2)
検知・測定用器具	複合型ガス検知器	2 XP-302M-A、リケンGX-2009
	放射線測定機器	10 富士電機(株)・日立アロカメディカル(株) 放射線個人線量計
		3 ガンマ線及びエックス線用線量率計
		1 表面汚染検査計
		1 nikonレーザ-500G
	活線接近警報器	14 HX-6型
	携帯警報器	10 スーパーパスII
隊員用保護用器具	耐電衣一式	3セット YS型
	耐熱服一式	2セット エミュー EM 6151
	労働衛生保護衣	3セット 密閉型
その他の救助用器具	発電機	7 ホンダEM 2300X、スバルSG 550、YAMAHA EF7H 他
	投光器一式	6セット シールドビーム1000、5型300、SHL-500E、PH型300、CTW-501
	LED警告灯	1 シンクロス
	バルーンライト	1 LB030CS-1-F
	発電機付投光器	1式 RD900LED
	ソフトランディング	1 スーパーソフトランディングSSL
	検索棒	5 伸縮型

3 通信系統



4 無線電話配置状況

デジタル（活動・統制波）

種 別 \ 所 属 別	出 力	計	白老中央 公民館	萩野分 所	消防本部	消防署	出張所	消防団	各地区 サイレン
基地局	10W	2	1	1					
固定局	500 μ W 320mW 630mW 5 W 10 W	6	1						5
半固定移動局	5W	2			1		1		
移動局(車載型)	5W	20			1	11	3	5	
移動局(携帯型)	2W	10				10			
無線局数合計		40	2	1	2	21	4	5	5

※ 固定局無線出力内訳

10W 白老中央公民館、630mW 社台、500 μ W 白老、320mW 萩野、5W 竹浦・虎杖浜分団



ウポポイ

NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間



NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館

白老町ポロト湖畔に民族共生象徴空間が誕生！

「ウポポイ」はアイヌ語で「(おおぜいで) 歌うこと」

アイヌの尊厳を尊重し、アイヌの歴史・文化等を復興するナショナルセンターとして、北海道白老町に「民族共生象徴空間」が整備されました。

民族共生象徴空間は、国立アイヌ民族博物館と国立民族共生公園等で構成され、アイヌの歴史や文化等に関する幅広い理解の促進を図り、豊かな自然を活用した憩いの場の形成を通じて、将来に向けて新たなアイヌ文化の創造と発展に繋げるための空間となります。

ACCESS



空路

●東京→札幌(新千歳空港) ●大阪→札幌(新千歳空港)
約1時間35分 1H52便 約2時間10分 1H8便

各都市からの「車」と「JR」

札幌→白老 高速道路で約60分 JR特急で約60分	千歳→白老 高速道路で約40分 JR特急で約30分	苫小牧→白老 高速道路で約20分 JR特急で約15分
室蘭→白老 高速道路で約30分 JR特急で約30分	函館→白老 高速道路で約4時間 JR特急で約2時間30分	伊達市大滝区→白老 一般道路で約40分